人文学部

Faculty of Humanities

履修要項

2025

2025年度　　学 年 暦

春学期

90分×15回

	日	月	火	水	木	金	土	年間行事等
3月	2	3	4	5	6	7 進級判定	8	3/7 進級判定
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21 卒業式	22	3/20 （春分の日） 3/21 卒業式(秋学期)
	23	24	25 オリエン	26 オリエン	27 オリエン	28 オリエン	29	
4月	30	31 オリエン	1 オリエン	2 オリエン	3 入学式	4 オリエン	5	3/25-4/2、4/4 2025年度春学期オリエンテーション 4/3 入学式(春学期)
	6	7 ①	8 ①	9 ①	10 ①	11 ①	12	4/7 春学期授業開始
	13	14 ②	15 ②	16 ②	17 ②	18 ②	19	
	20	21 ③	22 ③	23 ③	24 ③	25 ③	26	4/29 （昭和の日） 授業日
5月	27	28 ④	29 ④	30 休講	1 休講	2 休講	3	4/30、5/1、2 休講 5/3 （憲法記念日）
	4	5	6	7 ④	8 ④	9 ④	10	5/4 （みどりの日） 5/5 （こどもの日）
	11	12 ⑤	13 ⑤	14 ⑤	15 ⑤	16 ⑤	17	5/6 （こどもの日）振替休日
	18	19 ⑥	20 ⑥	21 ⑥	22 ⑥	23 ⑥	24	
	25	26 ⑦	27 ⑦	28 ⑦	29 ⑦	30 ⑦	31	
6月	1	2 ⑧	3 ⑧	4 ⑧	5 ⑧	6 ⑧	7	
	8	9 ⑨	10 ⑨	11 ⑨	12 ⑨	13 ⑨	14	
	15	16 ⑩	17 ⑩	18 ⑩	19 ⑩	20 ⑩	21	
	22	23 ⑪	24 ⑪	25 ⑪	26 ⑪	27 ⑪	28	
7月	29	30 ⑫	1 ⑫	2 ⑫	3 ⑫	4 ⑫	5	
	6	7 ⑬	8 ⑬	9 ⑬	10 ⑬	11 ⑬	12	
	13	14 ⑭	15 ⑭	16 ⑭	17 ⑭	18 ⑭	19	
	20	21 ⑮	22 ⑮	23 ⑮	24 ⑮	25 ⑮	26 補講	7/21 （海の日）授業日 7/25 春学期授業終了
8月	27	28 補講	29 定期試験	30 定期試験	31 定期試験	1 定期試験	2	7/26、28 補講日 7/29-8/4 春学期定期試験
	3	4 定期試験	5 追試験	6 追試験	7 追試験	8 追試験 予備日	9	8/5-8/7 追試験 （8/8 追試験予備日）
	10	11	12	13	14	15	16	8/11(山の日)
	17	18	19 再試験	20 再試験	21 再試験	22 再試験 予備日	23	8/19-8/21 再試験 （8/22 再試験予備日）
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							

秋学期

90分×15回

	日	月	火	水	木	金	土	年間行事等
9月	31	1	2	3 卒業・進級判定	4	5	6	9/3 卒業/進級判定
	7	8 オリエン	9 オリエン	10 卒・入	11 オリエン	12 オリエン	13	9/10 午前卒業式（春学期）/午後入学式（秋学期） 9/8-18 秋学期オリエンテーション
	14	15	16 オリエン	17 オリエン	18 オリエン	19 ①	20	9/15 敬老の日 9/19 秋学期授業開始
	21	22 ①	23 ①	24 ①	25 ①	26 ②	27	9/23 秋分の日 授業日
10月	28	29 ②	30 ②	1 ②	2 ②	3 ③	4	
	5	6 ③	7 ③	8 ③	9 ③	10 ④	11	
	12	13 ④	14 ④	15 ④	16 ④	17 ⑤	18	10/13 (スポーツの日）授業日
	19	20 ⑤	21 ⑤	22 ⑤	23 ⑤	24 休講	25 学園祭	10/24 学園祭準備のため休講
	26 学園祭	27 ⑥	28 ⑥	29 ⑥	30 ⑥	31 ⑥	1	10/25、10/26 学園祭（予定）
11月	2	3 ⑦	4 ⑦	5 ⑦	6 ⑦	7 ⑦	8	11/3（文化の日）授業日
	9	10 ⑧	11 ⑧	12 ⑧	13 ⑧	14 ⑧	15	
	16	17 ⑨	18 ⑨	19 ⑨	20 ⑨	21 ⑨	22	
	23	24 ⑩	25 ⑩	26 ⑩	27 ⑩	28 ⑩	29	11/23 （勤労感謝の日） 11/24 （勤労感謝の日）振替休日　授業日
12月	30	1 ⑪	2 ⑪	3 ⑪	4 ⑪	5 ⑪	6	
	7	8 ⑫	9 ⑫	10 ⑫	11 ⑫	12 ⑫	13	
	14	15 ⑬	16 ⑬	17 ⑬	18 ⑬	19 ⑬	20	
	21	22 ⑭	23 ⑭	24 ⑭	25 ⑭	26 ⑭	27	
1月	28	29	30	31	1	2	3	1/1 （元日）
	4	5 ⑮	6 ⑮	7 ⑮	8 ⑮	9 ⑮	10	1/9 秋学期授業終了
	11	12	13 補講	14 補講	15 定期試験	16 定期試験	17	1/12 （成人の日） 1/13、14 補講日
	18	19 定期試験	20 定期試験	21 定期試験	22	23 追試験	24	1/15-1/21 秋学期定期試験 1/23-1/27追試験
	25	26 追試験	27 追試験	28 追試験 予備日	29	30	31	(1/28 追試験予備日）
2月	1	2	3	4	5 再試験	6 再試験	7	2/5-9 再試験
	8	9 再試験	10 再試験 予備日	11	12	13	14	（2/10 再試験予備日） 2/11 （建国記念の日）
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27 卒業判定	28	2/23 （天皇誕生日） 2/27 卒業判定
3月	1	2	3	4	5	6 進級判定	7	3/6 進級判定
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	3/20 （春分の日）
	22 卒業式	23	24	25 オリエン	26 オリエン	27 オリエン	28	3/22 卒業式(秋学期) 3/25-31 2026年度春学期オリエンテーション
	29	30 オリエン	31 オリエン					

①〜⑮ 授業日
オリエンテーション
定期試験
再試験・追試験
休講
※休み期間に集中講義を行う場合があります。

式典
学園祭
卒業判定・進級判定
土・日・祝日
夏休み・冬休み・春休み期間

履修要項

2025

京都先端科学大学
人文学部

心理学科　Psychology
歴史文化学科　Japanese History and Cultural Studies

京都先端科学大学　建学の精神と３つのポリシー

＜建学の精神＞

本学では、未来につながる課題を自ら設定し、それを解決することができる先端人材を輩出します。

本学では、これからの社会が目指すべき姿を構想し、その実現に向けた諸課題の解決に繋がる先端学術研究を実践します。

本学は、人材輩出・研究の実践を通じ、現在と未来の世界に先頭を切って貢献していきます。

＜建学の精神の実践＞

未来社会を支える人材は、多様な価値観の存在する世界で活躍します。

本学は、未来社会の姿を見通し、起こり得る新たな課題を洞観し、現在の諸課題と併せて世界に率先して解決する教育・研究活動を実践します。

世界で通用する先進性・多様性・倫理観と、専門的知識・創造的思考力・洞察力・俯瞰力・幅広い教養を兼ね備えて、複雑で複合的な問題に挑戦できる人材を育てます。

＜卒業認定・学位授与の方針＞（ディプロマ・ポリシー）

1．知識・理解

1.1　核となる特定の知識体系を他領域の知識と関連づけながら修得し、変容するグローバル社会の諸問題を解決するために活用できる。

2．技能

2.1　適切な方法で収集した情報およびデータを活用できる。

2.2　多様な言語を用いて、他者と意思疎通を行うことができる。

3．思考・判断・表現

3.1　修得した知識、技能ならびに経験を活かして、複眼的思考で自らの考えを論理的に組み立て、表現できる。

3.2　自ら設定した主題について、収集した資料を客観的に分析しながら、批判的に考察できる。

4．関心・意欲・態度

4.1　変容するグローバル社会の諸問題に継続的に関心を示し、その問題の解決のために粘り強く主体的に行動できる。

4.2　多様な他者と協働しながら、自律的な社会人として行動できる。

＜教育課程編成・実施の方針＞（カリキュラム・ポリシー）

1．教育課程編成

1.1　教育課程として、現代リベラルアーツ科目および各学部学科専門科目を配置します。

1.2　現代リベラルアーツ科目では、汎用的能力の中核的な力として、未来展望力・教養、学術的な基礎力・技能、語学力・異文化理解、およびコミュニケーション力・リーダーシップ・協調性を修得することを目的とし、修得に必要なリベラルアーツ科目を配置します。

1.3　専門科目は、各々の学部学科の学修を活かした進路に則して配置され、専門的知見に基づく主体的な行動力および問題解決力を育成します。

2．学修方法・学修過程

（学修方法）

2.1　４年間の教育課程では、教養科目や専門科目を理論的に学修するだけでなく、体験学修およびキャリア学修も連動させながら実践的かつ能動的に学修します。

（学修過程）

2.2.1　現代リベラルアーツ科目では、汎用的能力の修得に必要なリベラルアーツ科目を段階的に学修します。

2.2.2　初年次科目で、基礎的な課題発見力・解決力およびコミュニケーション力を育む学修を行います。

2.2.3　学術的な日本語能力・数的処理能力・IT 技能の修得を目指した学修を行い、また、身体活動を通じてコミュニケーション力・リーダーシップ・協調性を育む学修を行います。

2.2.4　社会人として有用な英語力の修得を目指して、一貫したカリキュラムで英語科目を学修します。また、英語で学ぶ留学生は、日本社会で必要な日本語力の修得を目的として、日本語科目を段階的に学修します。

2.2.5　キャリア科目では、働くことの意義を理解し、キャリア形成に関する実践的手法を学修します。

2.2.6　4 年間を通じて、教養および課題発見力・解決力を育む未来展望科目ならびに学際コア科目でグローバル社会の諸問題を学際的に学修します。

（学修過程）

2.3　専門科目では、専門的知見に基づく主体的な行動力および問題解決力の修得を目的として、各学部学科で設置されるコース・プログラムの下で段階的に学修しながら卒業研究を行います。

3．学修成果の評価

3.1　学修成果は、ディプロマ・ポリシーで定められた能力と、カリキュラムの各科目で設定される到達目標の達成度を示すものであり、アセスメント・プランに従って多様な方法で学修成果を評価します。

3.2　各科目の内容、到達目標、および評価方法・基準をシラバスに示し、到達目標の達成度を評価します。

＜入学者受け入れの方針＞（アドミッション・ポリシー）

本学は、建学の精神において、「未来につながる課題を自ら設定し、それを解決することができる先端人材」の育成を教育の目的にしています。そのために、志望学部・学科の教育内容を理解した上で、学問の探究と実践、並びに技能の向上を目指し、グローバル社会に必要な市民教養を身につける意欲を持つ人を求めます。

1．知識・技能

・高等学校等において履修する科目についての基礎的な知識や技能を持つ。

2．思考力・判断力・表現力

・科学、文化、社会、自然、健康などの事象に関わる学問領域について考え判断する能力があり、自分の考えを表現できる。

3．主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

・学問や技能に対する強い興味・関心があり、主体的に学ぶ強い意欲を持つ。

・知識や技能の修得のために、多様な人々と協働して取り組める。

・国際人としての教養を身につけ、英語を中心とした語学力の向上を目指す意欲を持つ。

＜学修成果評価の方針＞（アセスメント・プラン）

1．目的

本学のディプロマ・ポリシー（DP）、カリキュラム・ポリシー（CP）、及びアドミッション・ポリシー（AP）の達成状況を検証する方法を定めることにより、学生の学修成果を評価し、教育の改善を持続的に行う。

2．機関レベル（大学全体）

学生の志望進路に対する就職率、資格・免許取得率、学生調査などから、学修成果の達成状況を検証する。

3．教育課程レベル（学部・学科）

学部・学科の教育課程における単位修得状況、GPA、卒業論文、資格・免許取得率などから、教育課程レベルでの学修成果の達成状況を検証する。

4．科目レベル（授業科目）

ディプロマ・ポリシー（DP）とシラバスで明示した到達目標が適合しているかを検証する。また、成績評価基準に基づく成績評価、授業評価アンケートの結果などから、科目レベルでの学修成果の達成状況を検証する。

■主なアセスメント（評価）指標

<table>
<tr><th></th><th>入学前・入学時</th><th>在学中</th><th>卒業時・卒業後</th></tr>
<tr><td rowspan="2">機関レベル
（大学）</td><td rowspan="2">・入学試験
・入学前教育
・新入生調査
・外部アセスメントテスト</td><td>・留年率
・休学率
・退学率</td><td>・卒業率、学位授与数
・就職率、進学率
・資格・免許取得率</td></tr>
<tr><td>・単位修得状況
・GPA
・成績分布
・課外活動参加率
・学外活動参加率
・在学生調査
・学修ポートフォリオ
・外部アセスメントテスト</td><td>・卒業時学生調査
・卒業後学生調査
・学修ポートフォリオ
・外部アセスメントテスト</td></tr>
<tr><td rowspan="2">教育課程レベル
（学部・学科）</td><td rowspan="2">・入学試験
・入学前教育
・新入生調査
・外部アセスメントテスト</td><td>・留年率
・休学率
・退学率</td><td>・就職率、進学率
・資格・免許取得率
・教員採用試験合格率
・国家試験合格率</td></tr>
<tr><td>・単位修得状況
・GPA
・成績分布
・各種 成果報告会
・各種 コンテスト
・海外留学・研修評価
・インターンシップ評価
・在学生調査
・学修ポートフォリオ
・外部アセスメントテスト</td><td>・卒業研究、卒業論文
・卒業時学生調査
・卒業後学生調査
・学修ポートフォリオ
・外部アセスメントテスト</td></tr>
<tr><td>科目レベル
（授業科目）</td><td>・入学前教育
・プレイスメントテスト</td><td>・成績評価
・成績分布
・科目合格率
・出席状況
・授業評価アンケート
・卒業研究</td><td>―</td></tr>
</table>

※アセスメント（評価）の実施時期、対象、評価者、実施責任者、結果の活用方法等については別に定める。
また、上の指標は改定する場合がある。

履修要項とは

入学から卒業までの間に、学則および履修要項に定められた科目を学修し、所定の単位を修得しなければなりません。この『履修要項』には、学修の計画をたてるために必要な情報をすべて掲載しています。熟読して、卒業までの学修計画をしっかりたてましょう。この冊子は、入学時のみ配布しますので、紛失等のないよう留意してください。

京都先端科学大学　人文学部　履修要項目次

京都先端科学大学　建学の精神と３つのポリシー	２
覚えてほしい大切なこと	
アドバイザー制度	６
教員との連絡	６
「先端なび」～学修支援ポータルサイト～	６
大学からの連絡	６
授業の出席要件について	６
スポーツ・ライフスキル科目（SLSⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）の受講について	７
教務センター窓口	７
第１部　履修の心得	
Ⅰ．履修をはじめるにあたって	８
Ⅱ．授業科目の開設について	９
Ⅲ．履修登録	１１
Ⅳ．出席管理システムについて	１４
Ⅴ．試験	１５
Ⅵ．成績・GPA	１９
Ⅶ．単位授与及び認定	２０
Ⅷ．進級要件	２１
Ⅸ．学修者本位の学び	２３
Ⅹ．卒業と学位	２４
Ⅺ．学籍	２６
第２部　教育課程	
人文学部　教育目的と３つのポリシー	３１
先端ツーリズムコースについて	３２
第１章　心理学科	
教育目的と３つのポリシー	３４
履修上の注意	３５
授業科目一覧	３８
『公認心理師』受験資格取得のための単位修得について	４２
公益社団法人日本心理学会「認定心理士」について	４４
一般社団法人社会調査協会「社会調査士」について	４６
第２章　歴史文化学科	
教育目的と３つのポリシー	４７
履修上の注意	４８
授業科目一覧	５０
第３章　大学共通	
インターンシップ（企業実習）プログラム	５４
大学コンソーシアム京都　単位互換制度	５５
放送大学　単位互換制度	５６
国内留学（札幌学院大学・沖縄国際大学）	５７
海外留学･海外研修	５８
キャリア・就職支援体制	６０
カリキュラムツリー	６３

学則、学費規程、学位規程、学生の懲戒に関する規程は、「先端なび＞共通＞ドキュメント＞諸規則情報」で確認してください。

覚えてほしい大切なこと

アドバイザー制度

学生のみなさん一人ひとりに対して、専任の担任・副担任がアドバイザーとして指導を行います。担任・副担任は、みなさんの様々な相談に応じ、学修・生活上の問題解決のための助言を行います。

教員との連絡

本学では、学生が教員に相談できる時間としてオフィス・アワーを設けています。教員との連絡・相談は、授業前後やオフィス・アワーの時間を利用して行ってください。オフィス・アワーは、「先端なび」で確認できます。この他にも、教員が研究室に在室している時間は相談を受け付けます。

「先端なび」～学修支援ポータルサイト～

「先端なび」は、パソコンを使用して、以下に記載されているような様々な学生生活に関わる情報を提供します。

スマートフォンで確認する場合は、右の QR コードからご利用ください。

◇諸連絡　◇各種案内　◇休講・補講情報　◇呼び出し情報　◇学修ポートフォリオ
◇履修登録・シラバスの参照　◇各人の授業時間割の参照　◇出欠状況
◇課題（レポート等）の確認・提出　◇住所等届出事項の変更　◇面談予約　◇就職関係　など

※「先端なび」の「メール設定」画面で自分のメールアドレスを登録しておくと、掲示された情報がメールに配信（転送）されます。

大学からの連絡

大学から学生のみなさんへの連絡は、原則として「先端なび」を通じて行います。毎日必ず「先端なび」を確認してください。「先端なび」に掲載したものは、学生に周知されたものとして取り扱います。

授業の出席要件について

1．授業出席要件（一部科目除く）

履修科目の単位を修得するには、授業に出席し学修を行うことが大前提となります。本学で開講されるすべての科目について、単位を授与されるには、授業回数の３分の２以上の出席が必要です（15 回ある授業の場合、10 回以上の出席が必要）。なお、１回の遅刻（授業開始後５分から 20 分の間）は、それ自体では欠席とはなりません。遅刻をどのように扱うかについては、科目担当教員が判断します。

2．**厳しい出席要件を課す科目**

一部の科目については、厳しい出席条件を課しています。

現代リベラルアーツ科目の下記の必修科目では、単位を授与されるには、授業回数の５分の４以上の出席が必要です（15 回ある授業の場合、12 回以上の出席が必要）。

該当科目
初年次ゼミⅠ・Ⅱ
英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB
英会話 A・B・C・D・E
SLSⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
キャリアデザインⅠ・Ⅱ

※前頁以外の一部科目についても、教育効果に鑑み、厳しい出席要件が課される場合があります。詳細は、P.36 を参照してください。

◇授業を欠席する場合の留意点
① 本学に「公欠」はありません。
② 教務センターから科目担当教員への取り次ぎは行いません。
③ 障がいを持つ学生に対して、合理的配慮に基づいて学修支援を行う場合は、個別の対応を行います。

スポーツ・ライフスキル科目（ＳＬＳⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）の受講について

スポーツ・ライフスキル科目については、京都亀岡キャンパスで受講します。また、京都太秦キャンパス通学者がスポーツ・ライフスキル科目を京都亀岡キャンパスで受講する日は、情報リテラシーⅠ、英語科目の一部を京都亀岡キャンパスで開講します。授業時間に合わせてキャンパス間バスを利用してください。
※このバスは受講人数に合わせて運行しています。乗車マナーを守り、後部座席から着席してください。
※看護学科・言語聴覚学科のスポーツ・ライフスキル科目は、京都太秦キャンパスで受講します。

教務センター窓口

履修登録をはじめ授業に関して分からない事があれば、教務センターへ問い合わせてください。
《京都太秦キャンパス・京都亀岡キャンパス 窓口取扱時間》

月～金	8:30～17:00

※土日祝日、その他大学が定める休業日を除きます。

第1部　履修の心得

Ⅰ．履修をはじめるにあたって

大学は、「学生が自主的に学ぶところ」です。つまり、大学は一方的に教えられる場所ではなく、自ら考え、自らの意見を形成していく場所です。

４年間を通じての学修プランを立て、卒業時には「この点については特に学修した」と言えるようになることが必要です。学修は、自分のためにするものです。また、文章を書く力、議論をする力、深く考え学修する力、新しい発想を創造する力等々は、社会に出てからも必要となる非常に大切な力であり、大学の授業を通じてこれらの力を向上させる努力が大切です。

１．単位制について

（1）単位制

大学は、単位制をとっています。単位制とは、所定の授業科目を一定の基準に従い履修し、科目ごとに定められた単位を修得する制度です。

（2）単位

単位とは、学修に要する時間を表す基準です。単位の修得はそれぞれの科目について所定の時間を履修し、試験その他大学が定める適切な方法により合格と判定され初めて単位を修得できます。この単位の集積をもって卒業に必要な単位数を満たしていくことになります。

おおむね 15 時間から 45 時間までの範囲で、大学が定める時間の授業をもって 1 単位として単位数を計算するものとしています。

① 講義・演習科目は、15～30 時間の授業時間をもって 1 単位とします。

（例）講義科目の単位算出

90 分の授業は、2 時間とみなして計算しますので、2 時間×15 回＝30 時間の授業時間数となります。

15 時間の授業時間をもって 1 単位とみなす科目では、30 時間で「2 単位」になります。

② 実験、実習、実技科目は、30～45 時間の実験、実習又は実技をもって 1 単位とします。

③ 自主的学習時間と単位の関係

1 単位の内容は 45 時間の学修を基準としています。

30 時間の授業をもって 1 単位とする場合には、1 単位について 15 時間の自主的学習が必要です。

15 時間の授業をもって 1 単位とする場合には、1 単位について 30 時間の自主的学習が必要です。

（例①）2 単位　15 回授業の場合

総学修時間：90 時間		
事前学習　2時間	授業（1 回）　2時間	事後学習　2時間

（例②）1 単位　15 回授業の場合

総学修時間：45 時間		
事前学習　0.5 時間	授業（1 回）　2時間	事後学習　0.5 時間

（3）卒業の認定

学則で規定されている卒業に必要な単位（要卒単位）を修得し、かつ所定年数以上在学した場合に卒業となります（p.24「Ⅹ．卒業と学位」を参照）。なお、授業科目には要卒単位として算入される科目と、算入されない科目（資格課程等の取得を目的として修得する科目など）があります。

Ⅱ．授業科目の開設について

1．受講時のマナー

大学の授業において守るべき最低限のマナーには次のようなものがあります。みなさん自身でより良い受講環境をつくりましょう。

- 私語をしない。
- 携帯電話・スマートフォン・音楽プレーヤー等は、指示がない限り使用しない。
- 途中入退室をしない（手洗いに行く場合や体調不良・通院などの理由で途中入退室が必要な場合は科目担当教員に申し出ること）。
- 原則として、飲食をしない。
- 教室内では帽子を取る（事情があって帽子着用の必要な学生は、事前に科目担当教員に申し出ること）。
- 学生証の貸し借りをしない（発見した場合は、本学の「学生の懲戒に関する規程」に基づき対処します）。

マナーを守らない学生には、科目担当教員がその都度注意しますが、改善が見られない場合には、退室を命じる、単位を授与しないなど、厳しく対処します。

2．セメスター制

セメスター制とは、1 つの授業を学期（セメスター）ごとに完結させる制度です。1 つの授業を 1 年間通じて実施する通年制における春学期・秋学期の区分とは異なります。入学時期ごとの年次・学期（セメスター）の関係は、次の通りです。

（春学期入学の場合）

年次	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
セメスター	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター

（秋学期入学の場合）

年次	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期
セメスター	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター

3．授業時間帯

京都太秦キャンパス・京都亀岡キャンパス

1 講時	2 講時	3 講時	4 講時	5 講時
9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50

4．試験時間帯

京都太秦キャンパス・京都亀岡キャンパス

1 講時	2 講時	3 講時	4 講時	5 講時
9:00～10:00	10:40～11:40	13:00～14:00	14:40～15:40	16:20～17:20

※一部の学部において、試験時間 90 分の科目があります。対象科目は定期試験時間割で確認してください。

5．休講

（1） 授業は、休講することがあります。休講連絡は「先端なび」で行います。

（2） 休講の掲示がなく、授業開始後 30 分以上経過しても科目担当教員が入室しない場合は、教務センターに問い合わせて指示を受けてください。

6．気象警報発令、あるいは公共交通機関に遅延等があった場合の授業および試験の取り扱い

（1）気象警報が発令された場合

京都府南部京都・亀岡（京都市、亀岡市、向日市、長岡京市、大山崎町のいずれか）に「特別警報」「暴風警報」「暴風雪警報」のいずれかが発令された場合の対応は、以下のとおりとします（両キャンパス対象）。

警報解除時刻	授業および試験開始講時
7時までに解除	1講時から実施
10時までに解除	3講時から実施
10時を過ぎて解除	全講時休講

（注）「大雨警報」「洪水警報」「大雪警報」は、原則として、休講の対象にはなりません。
ただし、特例的に休講にする場合があります。その場合は、本学HPおよび「先端なび」に掲示を行います。

※ 授業開始後に対象警報が発令された場合は、原則として、以降の授業は休講となります。

※「特別警報」が発表されたときは、ただちに命を守る行動をとってください。当該事由により授業または試験に出席できなかった場合は、下記の「（2）公共交通機関が遅延した場合」に準じて対応してください。

（2）公共交通機関が遅延した場合

当該事由により授業または試験に出席できなかった場合は、下記の対応をとってください。

① 授業（授業内試験を含む）に出席できなかった場合
当日中に科目担当教員に申し出て、指示に従うこと。

② 期末定期試験に出席できなかった場合
追試験の対象となります。
詳細はp.17「2．追試験」参照のこと。

7．開講キャンパス

本学で開講されている科目は、京都太秦キャンパス・京都亀岡キャンパスのどちらかで開講されています。キャンパス間の移動は、キャンパス間バス、もしくは公共交通機関を利用してください。キャンパス間移動をする際は、移動時間を十分考慮しましょう。

Ⅲ．履修登録

1. 履修登録

履修登録は、セメスターごとに実施しており、セメスターごとの履修登録が必要です。正しく履修登録していない科目は、授業に出席したとしても、単位を修得することができません。

履修登録完了後、「先端なび」で正しく登録されているか確認してください。

2. 履修登録に関する注意事項

履修登録を行う際には、以下の点に注意をしてください。

履修登録は、すべて自己責任において行ってください。

- 必修科目は他の科目より優先して登録してください。
- 科目ごとの履修要件を守ってください。
- 同一授業時間に、2 科目以上を登録することはできません（全授業回をオンデマンド型のオンライン授業で実施する遠隔科目は除く）。
- 単位を修得した科目を再度履修することはできません。
- 履修登録制限単位数を超えて登録することはできません。

3. 履修登録制限（CAP 制）

学修の質および学修時間の確保のため、1 セメスター（または年間）で履修できる科目の上限単位数を設けています。各学科で定められた制限単位数を超過して履修登録することはできません。

※履修登録制限に、次の科目は含まれません。

該当科目
海外研修ⅠA・ⅠB・ⅠC・Ⅱ
企業実習Ⅰ・ⅡA・ⅡB・Ⅲ
インターンシップ実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
フィールド・スタディ A・B・C

4. 遠隔科目の履修について

大学設置基準に基づき、卒業要件に含めることができる遠隔科目の単位数は 60 単位を上限とします。なお、60 単位の上限は、あくまで要卒単位として算入できる遠隔科目の単位数の上限なので、60 単位を超えて遠隔科目の履修をすること自体は可能です。また、遠隔科目であっても、要卒単位に算入されない科目については、60 単位上限には含みません。要卒単位数および遠隔科目の単位数は、学生自らの責任において自己管理すべきものです。60 単位の上限をしっかりと意識したうえで、上限を超えないように単位数を計算し、履修登録を行ってください。

遠隔科目に分類される授業は、「先端なび＞共通＞ドキュメント＞遠隔科目一覧」で確認してください。また、シラバスにおいても、授業区分で遠隔科目に分類される授業を確認できますので、単位数の計算の際に参考にしてください。

［本学における対面/遠隔の授業区分］

遠隔授業の時間数が全授業時間数の半数を超えない場合は対面科目、超える場合は遠隔科目です。

本学での区分	授業形態の詳細	60 単位上限の適用
対面科目	対面授業のみ	×
	対面授業≧遠隔授業となる授業 （例：授業回数 15 回の内 1～7 回で遠隔を取り入れた授業）	×
遠隔科目	遠隔授業＞対面授業となる授業 （例：授業回数 15 回の内 8～14 回で遠隔を取り入れた授業）	○
	遠隔授業のみ	○

※遠隔授業：ライブ中継型、またはオンデマンド型のオンライン授業。

5. 科目の区分／履修登録の形態

（1）科目の区分

・必修科目：卒業要件（もしくは進級要件）として必ず単位を修得しなければならない科目。単位が修得できなかった場合、当該科目を翌セメスター以降に再履修しなければなりません。

・選択科目：自分の興味や進路に沿って選択して履修する科目。卒業要件で指定された単位数以上を修得しなければなりません。

（2）履修登録の形態　**※詳細は、各学部（各学科）のオリエンテーションで確認してください。**

①一括登録科目　＜登録作業：教務センター＞

受講があらかじめ決められており、教務センターが一括で履修登録する科目。主にクラス分け等の理由により、登録クラスが決められている必修科目が該当します。

②抽選登録科目　＜登録作業：学生＞

受講生数に定員のある科目（他学部受講科目※含む）。定員以上の受講希望者があった場合、選抜条件にしたがって受講者を決定します。受講について成績等の条件が課されることがあります。

抽選登録の手続きを経て受講が許可されれば、必ず受講しなければなりません。（受講辞退不可）

※ 他学部受講科目とは他学部における専門科目のうち、広く受講が許可された科目です。

③通常の履修登録科目　＜登録作業：学生＞

上記①②以外の科目。

6. 履修登録科目の追加・取り消し

上記「③通常の履修登録科目」に限って、各学期の第２週目まで（学年暦①～②の期間）、**学生自身で、**履修登録の追加・取り消しをすることができます。ただし、授業開始後に履修登録の追加をした場合、登録前の期間は欠席扱いとなります。また、同一授業時間に２科目以上を登録している場合、その科目は全て欠席扱いとなります（全授業回をオンデマンド型のオンライン授業で実施する遠隔科目は除く）。卒業に必要な単位数等を十分考慮し、履修登録科目の追加・取り消しを行ってください。

※インターンシップ（企業実習）プログラム（インターンシップ実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）の取り消しについては、P.54 を参照してください。

※履修登録科目の追加・取り消しにより、履修登録科目修正の必要が生じた場合にのみ、各学期の第３週目に（学年暦③の期間）に、**教務センターにて、**履修登録科目の追加・取り消しをすることができます。

7. 科目ナンバリング

「科目ナンバー」は、「第２部」各学科の授業科目一覧に掲載しています。履修科目を選択する際に活用してください。

（１）科目ナンバリングとは

科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を附番し分類することで、学修の段階や順序、授業科目の関係性等を表し、学内外に教育課程の体系性を明示する仕組みです。このナンバリングは、履修登録をする際、適切な授業科目を選択する目安ともなります。

（同じ科目名の科目であっても、学科によって異なる科目ナンバーを付している場合があります。）

（２）科目ナンバリングの構成

科目ナンバーは、以下のような８桁の英数字から構成されています。

（１桁目）（２桁目）（３桁目）（４桁目）（５桁目）（６桁目）（７～８桁目）

D　F　1　1　1　2　01

（大学共通/未来展望/入門レベル/講義形式/DP1.1関連/2単位科目/通し番号）

[科目ナンバー一覧]

（1桁目）開講学部・学科等コード			（2桁目）科目区分コード			（3桁目）レベルコード（授業科目の難易度、履修に適した学年等）		（4桁目）授業形態コード		（5桁目）学位授与の方針（授業科目に最も関連するディプロマ・ポリシー）		（6桁目）単位数	（7～8桁目）通し番号
大学共通		D	現代リベラルアーツ科目	未来展望科目	F	入門～基礎	1	講義	1	DP 1.1（知識・理解）	1	修得できる単位数	科目区分毎の通し番号
				学際コア科目	C	基礎～専門	2	講義・演習	2	DP 2.1（技能）	2		
				初年次科目	U	専門～応用	3	演習	3	DP 2.2（技能）	3		
				アカデミック・リテラシー科目	A	応用～発展	4	実験・実習・実技	4	DP 3.1（思考・判断・表現）	4		
				英語科目	E			学外実習	5	DP 3.2（思考・判断・表現）	5		
				日本語科目	J			卒業研究	6	DP 4.1（関心・意欲・態度）	6		
				第二外国語科目	L			その他	9	DP 4.2（関心・意欲・態度）	7		
				海外研修	K								
				スポーツ・ライフスキル科目	S								
				キャリア教育科目	R								
				フィールド・スタディ科目	D								
経済経営	経済学科 経営学科	EB	専門科目	入門科目	A								
				キャリア科目	R								
				法学科目	L								
				展開科目	I								
				演習科目	G								
人文	歴史文化学科 心理学科	HP	専門科目	基礎科目	B								
				展開科目	I								
環境バイオ	生物環境科学科 応用生命科学科	CV	専門科目	基礎科目	B								
				専門基礎科目	S								
				専門科目	M								
健康医療	看護学科 言語聴覚学科	NR	専門科目	専門基礎分野	S								
				専門分野	M								
	健康スポーツ学科	T	専門科目	基礎科目	B								
				応用科目	O								
				実習科目	P								
				実技科目	Q								
				演習科目	G								
工	機械電気システム工学科	M	現代リベラルアーツ科目	初年次科目（工学部）	U								
				英語科目（工学部）	E								
				日本語科目（工学部）	J								
				キャリア教育科目（工学部）	R								
				ロジカル思考基礎科目（工学部）	T								
			専門科目	専門共通科目	C								
				専門科目	M								
				実験・実習科目	X								
				総合演習科目	G								

Ⅳ．出席管理システムについて

本学では、出席管理システムを導入しています。毎講時、授業が始まる際に教室に設置されているタッチパネル式の出席管理システム端末に学生証をかざすと、自動的に出席状況が登録されます。

必ず学生証を携帯し、各授業の際にかざしてください。これを行わないと、たとえ出席していても欠席の扱いとなってしまいます。学生のみなさんの出席・遅刻の情報は「先端なび」で一元管理されます。科目担当教員は、このシステムに登録された出欠情報に基づいて出欠の確認を行うことを原則としますが、担当教員によっては授業終了時の小テスト提出など他の要件を課す場合もあります。

1．出席・遅刻・欠席の扱いについて

授業開始の８分前から、出席データの読み取りが可能となります。

授業開始から５分後に、遅刻の扱いへ切り替わります。

授業開始から 20 分以降は、欠席として扱います。

※1 回の遅刻（授業開始後５分から 20 分の間）は、それ自体では欠席とはなりません。遅刻をどのように扱うかについては、科目担当教員が判断します。

2．出席の不正行為について

学生証の貸し借りは出席の不正行為とみなし、本学の「学生の懲戒に関する規程」に基づき対処します。

3．出席票の交付について

学生証紛失による再発行手続中や、学生証を忘れた場合は、授業開始前に教務センターで「出席票」の交付を受け、授業で提出してください。

なお、「出席票」交付の際には、身分証明書が必要です。

Ⅴ．試験

１．定期試験

一部の授業を除き、原則として学期ごとに定期試験が行われます。定期試験は、日頃の学修の到達点を確認する重要なものです。また、本学では定期試験を厳正に執行しています。

定期試験の種類には、主として次の３種類があります。なお、複数の方法を組み合わせて実施される場合もあります。

①筆記試験
②レポート試験
③実技試験

（１）定期試験の時間

① 試験時間割

定期試験の時間割は、原則として試験開始の２週間前に「先端なび」上で発表します。

② 試験時間帯

京都太秦キャンパス・京都亀岡キャンパス

１講時	２講時	３講時	４講時	５講時
9:00～10:00	10:40～11:40	13:00～14:00	14:40～15:40	16:20～17:20

※一部の学部において、試験時間 90 分の科目があります。対象科目は定期試験時間割で確認してください。

（２）試験に関する注意事項

［筆記試験］

① 試験会場には、学生証を必ず持参すること。
② 学生証を忘れた場合は、教務センターで「受験許可証」の交付を受けること。
③ 指示された試験会場で受験すること。
④ 試験開始 15 分前には、試験会場に入室していること。
⑤ 試験開始時刻から 20 分以上遅刻した場合は受験資格を失います。
⑥ 試験開始後 30 分以上（試験時間が 90 分の科目は 45 分以上）経過し監督者が認めた場合には、途中退出することができます。

◇筆記試験の受験上の注意事項

① 試験会場では、試験監督者の指示・注意に従うこと。
② 学生証の「顔写真」は、試験監督者によく見えるように机上に置くこと。
③ スマートフォン等の電子機器類は、試験中は必ず電源を切り、カバンの中に入れること。
④ 持込許可品以外の物品は、カバンの中に入れること。
⑤ 不正と疑われる行為を発見した場合には、次頁「（３）不正行為」に記された内容で処分します。
⑥ 答案を無効として取り扱う場合
・答案が無記名の場合（学籍番号・氏名、どちらか一方が記入されていない場合でも無効となります）
・指定された場所に答案を提出していない場合

［レポート試験］

① レポートの課題

原則として、「先端なび」に掲示します。ただし、授業中に口頭連絡で提示される場合もあります。

② 提出期限について
提出期限については、科目ごとに担当教員が指定します。
③ 提出方法
原則として、「先端なび」上で提出。

◇レポート提出に関する注意事項
授業中に提出するように指示された場合は、授業中に提出してください。授業に遅刻・欠席し提出できない場合も、教務センターでは一切受け付けていません。提出期限に余裕を持って提出してください。なお、教員の電話番号・住所等の公開はしていません。

◇剽窃行為について
授業で課せられるレポートや論文を作成する際には、書籍等の著作物や Web サイトで他人の考えを参考にしたり、データを分析しながら、自分の考えを叙述することが求められます。著作物や Web サイトの記載をそのまま無断で引用する剽窃（ひょうせつ）行為（コピー＆ペースト等）は、社会的に許されない行為であり、他者の著作権を侵害する違法な行為となる場合もあります。剽窃行為が発見された場合は、本学として以下の通り対処します。

[剽窃行為についての本学の対処]
①レポート等の提出物を評価する教員が剽窃行為であると判断した場合は、当該提出物の評価は0点とする。
②他の学生が作成したレポート等を自分が作成したかのように記述してレポート等を提出した場合、剽窃行為を行った学生だけでなく、同行為を行った学生に自分のレポート等を見せた学生についても、提出物の評価は零点とする。

[生成系 AI についての本学の対応]
本学では、生成系 AI が提供する文章や情報を、大学で履修する授業の学修成果として提出する課題やレポートなどの成果物に、そのまま利用することは認めていません。本学に提出する成果物は自分で書いた文章で構成され、他所の情報を引用する場合は必ず正確に出典を表記することを求めています。提出された成果物において生成系 AI の利用が発覚した場合は、剽窃行為とみなすなど厳正に対処します。

（3）不正行為
次の行為が、不正行為にあたります。

① 代理人による受験、または受験を他人に依頼した場合
② 持込許可品以外の物品を持ち込み、またそれらを参照した場合
③ 筆記用具や持込許可品などを貸借した場合（貸した側、借りた側双方が処分されます）
④ 机等に不正な書き込みをして受験した場合
⑤ 解答用紙の交換、筆写を行った場合
⑥ 口頭等により不正な連絡を行った場合
⑦ 解答用紙を持ち帰った場合
⑧ 監督者の指示に従わなかった場合

定期試験・レポート試験中に学生が不正行為通告書を提示された場合は、試験終了後に事情聴取を受けることになります。その後、調査委員会が不正行為と認定した場合は、当該学生は受験資格を喪失し、自宅待機を命じられます。

[不正行為に対する処分]
学生が不正行為を行った場合は、大学による厳正な処分を受けます。成績評価については、不正行為を行った科目だけでなく、そのセメスターに履修したすべての科目が「不合格（F）/素点:0点」とされ、単位が授与されません（ただし、学部学科が指定した学外実習科目等は除く）。さらに懲戒処分として、本学の「学生の懲戒に関する規程」に基づいて、厳正に対処します。

（注）「大学コンソーシアム京都」、「放送大学」開設科目において不正行為を行った場合
他大学・短期大学等が開設する科目において不正行為があった場合は、科目を開設する大学・短期大学等が決定した処分に加え、本学においても厳正な処分を行います。

2．追試験

追試験は、下記表の事由により定期試験を欠席し、所定の手続きにより許可された場合にのみ、受験することができます。願い出により実施される試験です。

（1） 受験資格

追試験を申請できるのは、定期試験を次の事由により受験できなかった場合で、かつ証明書が入手できる場合に限られます。

	事由	証明書	備考
1	学校保健安全法施行規則 18 条で定める感染症に罹患し、大学が出席停止を求めた場合	医師の診断書	加療期間が明記されている等、当日欠席が必要であることが分かる診断書 例：インフルエンザの場合、出席には発症から５日、解熱から２日経過していることが必要
2	公共交通機関の運休・遅延	運休・遅延証明書	WEB からダウンロードした遅延証明書を提出する場合、各公共交通機関 HP に掲載されているリアルタイムの交通状況の画面（スクリーンショットしたもの）も提出が必要
3	３親等以内の慶事・忌引き	案内状、招待状、 会葬礼状、葬儀証明書 など	
4	自己の責めに帰さない不慮の事故または災害	事故証明書など	診断書の提出を求める場合もある。車、バイク、自転車での通学途上での故障・交通渋滞による遅延は含まない。
5	課外活動	公式大会要項など	体育連合協議会、文化連合協議会所属団体の内、部として認められている団体に限る。参加者名簿を添付すること。
6	教員免許取得にかかる教育実習・介護等体験および博物館実習	教務センターの証明書	
7	資格試験・就職試験	受験証明書など	
8	単位互換科目（大学コンソーシアム京都・放送大学）の授業・試験と重複する場合	受講・受験証明書	
9	１以外の病気・怪我で医師が加療を指示した場合	医師の診断書	加療期間が明記されている等、当日欠席が必要であることが分かる診断書
10	その他大学が正当と認めた事由	大学が指示する証明書	補講との重複など

（2）申請手続き

当該科目の試験終了後２日以内（試験当日・土日祝を含まない）に、追試験申請書に所定の証明書を添えて、教務センター窓口に速やかに提出してください。

※ 指定された追試験日時に受験できなかった場合は、受験資格を失います。

３．再試験

試験（追試験含む）の結果「不合格」と判定された場合、特定の科目（再試験対象科目）については、再試験を受けることができます。ただし再試験に対する追試験は実施しません。再試験で合格となった場合の成績評価はすべて（60点「C」）となります。また再試験で「不合格」となった科目は、以後のセメスターに授業を再履修することになります。

（１）受験資格

再試験実施科目の科目担当教員が認めた場合に受験できます。

（２）申請手続き

再試験の受験対象者には、「先端なび」を通じて教務センターより連絡します。再試験の受験を希望する場合は、試験前に配布される「実施要領」に従い申請してください。再試験受験には、1科目につき受験料3,000円が必要です。

※ 指定された再試験日時に受験しない場合は、当該科目は「不合格（Ｆ）」となります。

※「１.定期試験」「２.追試験」「３.再試験」以外に、科目担当教員の判断で、適宜授業内に試験が実施される場合があります。

※「２.追試験」「３.再試験」における不正行為の扱いは、「１.定期試験」に準じます。

Ⅵ．成績・GPA

1．成績評価

成績評価は、シラバスに記載されている成績評価方法に従って行われます。合格した科目は、取り消したり、再度履修登録したりすることはできません。

2．成績

	評価		成績表への記載	成績証明書への記載
	記号	素点		
合格	S	100～90	記号表記と素点表記	記号表記
	A	89～80		
	B	79～70		
	C	69～60		
	N	N	記号表記	
不合格	F	59～0	記号表記と素点表記	表記なし

※ 記号「N」は「認定」を表します。単位互換等で認定された科目は、「N」と記載されます。

3．成績発表

各学期の成績は、春学期は９月上旬頃、秋学期は３月中旬頃に、「先端なび」で発表します。

4．GPA

本学では、GPA（Grade Point Average）を導入しています。GPA とは大学の成績評価を数値化したもので、学力を測る指標となっています。GPA は、「先端なび」で確認できます。

※GPA 値は、学内における奨学金審査等で用いられています。成績基準として GPA 値が各種奨学金やその他の申請等の条件となる場合には、別途募集要項等に記載します。

（１）本学の GPA 換算方法

（計算式）

$$\text{GPA}=\frac{\begin{array}{c}(4\text{ポイント}\times\text{Sの科目の単位数合計})+(3\text{ポイント}\times\text{Aの科目の単位数合計})\\+(2\text{ポイント}\times\text{Bの科目の単位数合計})+(1\text{ポイント}\times\text{Cの科目の単位数合計})\\+(0\text{ポイント}\times\text{Fの科目の単位数合計})\end{array}}{\text{総単位数（履修登録科目の単位数）}}$$

GPA 換算時の対象科目は、履修登録をしたすべての科目となります。<u>不合格となった科目も対象となり、分母に加算されます。また、再履修した科目はすべての成績が対象となり、分母には延べ単位数が加算されます。</u>

※卒業要件に算入しない資格科目は除きます。

※大学コンソーシアム京都単位互換科目、留学によって修得した認定科目、外部試験公式スコアにより単位認定された科目など（評価が「N」と表される科目）は除きます。

5．成績表記調査

シラバスに記載された評価基準、および授業の中での評価基準の説明を十分に理解した上で、明らかに自分の成績が誤りであると考えられ、それを具体的に説明できる場合、成績表記調査を申し出ることができます。

申請方法：申請方法および申請期間については、「先端なび」よりお知らせします。

受　　付：成績表記調査の申請内容を確認して、明らかに成績表記に誤りがあると思われる場合は、受け付けます。

回　　答：「先端なび」より回答します。

注　　意：成績表記が誤りであるケースは極めて少なく、学生本人が評価方法や授業中の説明を理解していないために、成績表記が誤りであると思い込んでいるケースが大半です。事前に十分に検討してください。

Ⅶ．単位授与及び認定

1．単位授与

授業科目を履修し、原則として春学期末または秋学期末に行われる試験に合格した者には、所定の単位が与えられます。

試験の方法は、p.15「Ⅴ.試験」に示した筆記試験・レポート試験・実技試験などがありますが、科目によっては通常の授業時の成績を試験成績とすることがあります。

出席日数が不足している、あるいは途中で受講を放棄した場合は、その科目の単位は授与されません。

2．単位授与の時期

単位授与は、原則として９月・３月（各学期終了後）に行います。

単位授与されるには、単位授与時期に、学籍状態が「在学」または「留学」中である必要があります。（「休学」中の場合は、単位授与されません）。

3．他大学等で修得した単位の認定

教育上有益と認めた場合は、海外留学や国内留学、単位互換制度等を履修することができます。修得した単位は、60 単位を限度とし学部教授会の審議を経て卒業認定単位として認めることがあります。なお、上限 60 単位とは、個々の留学プログラムや単位互換制度ごとではなく、他大学等で修得した総単位数の上限となります。また、各学期の履修登録制限単位数を超えて認定することは出来ませんので、注意してください。

Ⅷ. 進級要件

1．進級要件

進級するためには、各学年において学科で定めた要件を満たすことが必要です。

【経済学科、経営学科、心理学科、歴史文化学科、健康スポーツ学科】

	1 年次終了時	2 年次終了時	3 年次終了時
修得単位数※	―	64 単位以上	―
単位修得が必要な「現代リベラルアーツ科目」必修科目	―	18 単位以上	―
単位修得が必要な専門科目	―	経済学科：マクロ経済入門 ミクロ経済入門、 経営学科：経営戦略入門、 会計学入門 心理学科： 「臨床心理学基礎演習」「社会・産業基礎演習」「心理学研究法」より 4 単位以上	―
在学期間（休学期間は除く）	1年次に1年間在学していること。	2年次進級後に1年間在学していること。	3年次進級後に1年間在学していること。

※卒業要件に算入されない科目の修得単位数は含まれません。

【生物環境科学科、応用生命科学科】

	1 年次終了時	2 年次終了時	3 年次終了時
修得単位数※	―	―	96 単位以上
単位修得が必要な「現代リベラルアーツ科目」必修科目	―	―	25 単位以上
単位修得が必要な専門科目	―	―	―
在学期間（休学期間は除く）	1年次に1年間在学していること。	2年次進級後に1年間在学していること。	3年次進級後に1年間在学していること。

※卒業要件に算入されない科目の修得単位数は含まれません。

【看護学科】

	1 年次終了時	2 年次終了時	3 年次終了時
単位修得が必要な「現代リベラルアーツ科目」	―	―	22 単位以上（卒業要件）
単位修得が必要な専門科目	―	2年次終了時までに開講した必修科目すべて	3年次終了時までに開講した必修科目すべて
在学期間（休学期間は除く）	1年次に1年間在学していること。	2年次進級後に1年間在学していること。	3年次進級後に1年間在学していること。

【言語聴覚学科】

	1 年次終了時	2 年次終了時	3 年次終了時
単位修得が必要な「現代リベラルアーツ科目」	―	―	29 単位以上（卒業要件）
単位修得が必要な専門科目	―	２年次終了時までに開講した必修科目すべて	３年次終了時までに開講した必修科目すべて
在学期間（休学期間は除く）	1年次に1年間在学していること。	2年次進級後に1年間在学していること。	3年次進級後に1年間在学していること。

【機械電気システム工学科】

	1 年次終了時	2 年次終了時	3 年次終了時
修得単位数※	―	―	88 単位以上
単位修得が必要な「現代リベラルアーツ科目」必修科目	微分積分と線形代数Ⅰ	英語科目より必修 10 単位を含む 18 単位以上	―
単位修得が必要な専門科目	物理工学Ⅰ	―	キーストーンプロジェクト
在学期間（休学期間は除く）	1年次に1年間在学していること。	2年次進級後に1年間在学していること。	3年次進級後に1年間在学していること。

※卒業要件に算入されない科目の修得単位数は含まれません。

Ⅸ．学修者本位の学び

1．学修者本位の学び

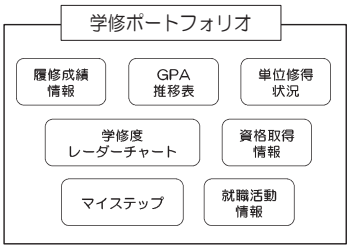
本学の教育課程（カリキュラム）によって身につく力は、現代のリベラルアーツとしての「グローバル社会を生き抜く力」です。大学・学部・学科は、それぞれ「卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー：DP)」として、学生の卒業要件を定めています(履修要項 p.2、および各学部・学科ページ参照)。

また、文部科学省の指針により、高等教育のあり方は、大学が学生に対して「何を教えるか」ではなく、学生自身が目指す姿になるために「何を学び、身に付けるのか」に変わってきました。この、学生が自らの学修の成果を実感しながら必要な能力を身に付けていくことを「学修者本位の学び」と呼びます。

「学修者本位の学び」を効率よく進めるツールとして、先端なびには「学修ポートフォリオ」と「マイステップ」が用意されています。

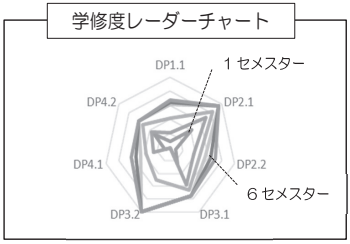
2．学修ポートフォリオ

学修ポートフォリオは、学生一人ひとりの学修情報(履修成績情報、資格、GPA 推移、単位修得状況)から就職活動情報までを一元的に確認できるツールです。そのなかには「卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー：DP)」への到達度を可視化した「学修度レーダーチャート」があります。　また、これは学修の自己管理ツール「マイステップ」とも連携しています。学修ポートフォリオを上手に活用することにより、自分自身の成長(学修進捗度)を GPA だけではなく、より広い視点から確認してください。



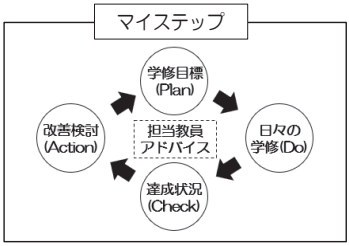
3．学修度レーダーチャート

各授業科目は「卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー：DP)」の７項目に割り付けられています。学修度レーダーチャートとは、学生の DP に対する伸長状況を、セメスターごとに修得した科目の成績も考慮して算出し、可視化したものです。上級生になるにつれ、また成績上位になるにつれ、相対的にレーダーチャートの面積は大きくなります。各 DP に対して伸びている点、欠けている点がわかりますので、自分の学修到達度を把握するとともに、翌セメスターの履修登録時の検討材料にしてください。



4．マイステップ(学修の自己管理ツール)

「学修者本位の学び」を進めるには、学生自身が「学修目標を立てる(Plan)」「日々の学修を行う(Do)」「達成状況をチェックする(Check)」「改善検討を行う(Action)」、翌セメスターにはまた「新しい学修目標を立てる(Plan)」という PDCA サイクルを回す必要があります。マイステップは、セメスターごとに「アセスメントテスト」等の結果を参考にして学修目標・達成状況・改善ポイント等を入力することで、学修の自己管理ができるツールになっています。学修目標設定時と成績発表時には、担当教員から面談等を通して入力内容に対するアドバイスがフィードバックされますので、それらも参考にしながら、自身が目指す姿になるための取り組みを、主体的に進めてください。



X．卒業と学位

1．卒業および学位

卒業するためには、大学が定める教育課程に従って学修し、次の卒業要件をすべて満たすことが必要です。

（1）所定在学年数

８セメスター以上在学し、各学年１年以上在学していること。休学期間は在学年数に含みません。

（2）所定単位の修得

卒業に必要な単位数（要卒単位数）・必修条件等を満たしていること。

（3）卒業判定

所定在学年数の要件を満たすことになる在学生を対象に卒業判定を行います。この卒業判定に合格した場合に、卒業が認められます。

2．学位

学部名	学科名	学位
経済経営学部	経済学科	学士（経済学）
	経営学科	学士（経営学）
人文学部	心理学科	学士（人文）
	歴史文化学科	学士（人文）
バイオ環境学部	生物環境科学科	学士（バイオ環境）
	応用生命科学科	学士（バイオ環境）
健康医療学部	看護学科	学士（看護学）
	言語聴覚学科	学士（言語聴覚学）
	健康スポーツ学科	学士（健康スポーツ学）
工学部	機械電気システム工学科	学士（工学）

3．卒業見込

（1）卒業見込証明書とは

「卒業見込証明書」とは卒業見込日が記載された証明書であり、就職試験や大学院入試等で受験先から提出を求められます。卒業見込は、卒業を保証するものではありません。

（2）証明書発行基準

卒業見込証明書の発行基準は次頁のとおりです。

【卒業見込証明書発行基準】

以下の表に記載されている要件に基づき、卒業見込証明書が発行されます。

<table>
<tr><th>所属学部</th><th>所属学科</th><th>卒業に必要な
単位数</th><th>第７セメスター</th><th>第８セメスター
※第８セメスター開始時に以下の修得単位数（要卒単位数）を満たしていること。</th></tr>
<tr><td rowspan="2">経済経営学部</td><td>経済学科</td><td rowspan="2">124 単位</td><td rowspan="4">３年次終了時に、卒業見込の有無についてお知らせします。</td><td rowspan="2">100 単位以上</td></tr>
<tr><td>経営学科</td></tr>
<tr><td rowspan="2">人文学部</td><td>心理学科</td><td rowspan="2">124 単位</td><td rowspan="2">100 単位以上</td></tr>
<tr><td>歴史文化学科</td></tr>
<tr><td rowspan="2">バイオ環境学部</td><td>生物環境科学科</td><td rowspan="2">128 単位</td><td rowspan="4">４年次に在籍していること</td><td rowspan="2">108 単位以上</td></tr>
<tr><td>応用生命科学科</td></tr>
<tr><td rowspan="3">健康医療学部</td><td>看護学科</td><td rowspan="2">126 単位</td><td>121 単位以上</td></tr>
<tr><td>言語聴覚学科</td><td>120 単位以上</td></tr>
<tr><td>健康スポーツ学科</td><td>124 単位</td><td>３年次終了時に、卒業見込の有無についてお知らせします。</td><td>100 単位以上</td></tr>
<tr><td>工学部</td><td>機械電気システム工学科</td><td>128 単位</td><td>４年次に在籍していること</td><td>104 単位以上</td></tr>
</table>

※第７セメスターで卒業見込証明書を発行されていた場合でも、成績次第で第８セメスターでは発行されない場合もあります。

Ⅺ．学籍

学籍は、入学によって発生し、卒業、退学、除籍によって喪失します。学籍の種類は、在籍（在学・休学・留学）、卒業、除籍、退学などがあります。

1．学籍番号

入学を許可した者に学籍番号を付与します。学籍番号は、原則として在籍中も卒業後も変わりません。

2．学生証

学生証は、本学の学生であることを証明する大切なものです。以下の場合に提示が必要になりますので、常に携帯してください。

- 定期試験の受験
- 各種証明書の交付
- 出席管理システム（p.14「Ⅳ．出席管理システムについて」参照）
- 本学教職員等から提示を求められたとき

※学生証の紛失・盗難にあった場合は、教務センターに届け出てください。
※学生証の有効期間は、４年間です。

3．在籍について

在籍には、在学、休学、留学の３つがあります。

（1）休学

病気その他の事由により継続して就学できない見込みの場合は、休学を願い出ることができます。

① 休学の願い出

「休学願」に事由を明記して、保証人との連署で願い出てください（病気等で休学する場合は診断書を添付）。感染症、その他の病気のために就学不適当と認められた場合は、学部長が休学を命ずることがあります。

② 休学期間

休学期間はセメスター単位とし、継続して２年を超えることはできません。ただし、特別な理由がある場合（例えば、留学生で母国の兵役により、休学期間が２年を超える場合）は、引き続き１年以内に限り延長することができます。休学の期間は、入学時から通算して４年を超えることはできません。

③ 休学中の学費

休学中は学費の納付を免除します。ただし、休学期間中はセメスターごとに在籍料（10,000 円）を納付しなければなりません。

※当該学期の学費を既に納付している場合は在籍料の納付を免除しますが、学費の返還はできません。

（2）留学

本学が提供する留学プログラムで留学する場合、学部の教授会で審議します。留学が認められた場合、留学期間は、在学年数に算入します。

4．復学について

休学者が復学を希望する場合、以下の手続期日までに「復学願」を保証人との連署で提出し許可を得る必要があります。病気等で休学していた場合は、就学ができることを証明する書類（診断書等）を添付してください。

- 復学の手続期日

春学期末に休学期間が終了する者：休学期間中の８月 25 日まで
秋学期末に休学期間が終了する者：休学期間中の３月 11 日まで

※期日までに復学願が提出されない場合は除籍となります。

5．学籍の喪失

学籍を喪失（本学の学生でなくなること）する場合として、卒業と退学、除籍の３種類があります。

（1）卒業

各学部の修業年限以上在学し、各学部で定める卒業に必要な単位を修得した場合に卒業となり、学士の称号が与えられます。

（2）退学

事情により、退学するときは所定の手続きが必要となります。

・　原則として、指導担当教員（担任・チューター等）と面談する必要があります。

・　「退学願」に事由を明記して、保証人との連署により学生証を添えて願い出てください。

※懲戒すべき事由で退学した学生は、原則として再入学は認めません。

※退学にあたり、当該学期の学費を既に納入している場合、学費の返還はできません。

（3）除籍

以下に該当する者は除籍となり、本学の学生の身分を失います。

・　定められた期間に所定の学費を納入しない場合

・　在学期間が８年を超える場合

・　休学期間終了までに所定の手続（復学、休学延長または退学）をしない場合

・　死亡した場合

※除籍された者は、下記「6．復籍について」の復籍することができる期間においても、休学・退学はできません。

6．復籍について

上記「5．学籍の喪失」「（3）除籍」で学費未納の場合に限り、除籍措置の日から１ヵ月以内であれば、願い出により復籍することができます。所定の学費を納入し、復籍願に保証人と連署の上、復籍料（10,000 円）とともに願い出てください。

除籍措置の日から１ヵ月を超えると、復籍できません。その場合は、再入学の手続きとなります。

7．再入学

（1）再入学を願い出ることができるのは、次の事由により学籍を喪失した場合に限ります。

①　退学により学籍を喪失した場合

②　除籍により学籍を喪失した場合（ただし、在学期間が８年を超えた場合を除く）

（2）再入学申し出期間

上記①～③の学籍喪失日（退学日・除籍日）より２年以内で、再入学しようとする前学期の１月末日または７月末日まで。

（3）再入学金

再入学を希望する場合は、再入学金（再入学する年度の入学金の２分の１）が必要です。

※改組・転換等により、退学・除籍以前に在学していた学部学科が開設されていない場合は、現在開設されている学部学科に変更して出願できますので、出願前にご相談ください。

8．転学部・転学科

転学部・転学科を希望する場合は、春学期は６月 15 日、秋学期は１月 15 日までに教務センターに申請してください。ただし、転学先の学部・学科に欠員のある場合に限り、選考の上、転学を許可します。

京都先端科学大学学籍に関する取扱い　令和７年2月7日制定

（趣旨）

第1条　この取扱いは、京都先端科学大学学則（昭和44年4月1日制定。以下「学則」という。）及び京都先端科学大学大学院学則（平成6年3月14日制定。以下「大学院学則」という。）に規定する学生の学籍異動のうち、休学、復学、除籍、復籍、退学、再入学、転学部・転学科、転学等の取扱いに関し必要な事項を定める。

（学籍）

第2条　京都先端科学大学（以下「本学」という。）及び京都先端科学大学大学院（以下「本大学院」という。）に入学を許可された者に、本学の学籍を与える。

2　前項に規定する者に学籍番号を付与し、学生証を交付する。
3　学生の学籍に関する情報を管理するため学籍簿を作成する。

（休学）
第3条　休学を希望する者は、所定の休学願に保証人連署の上その具体的な事由を記載して、学部長又は研究科長に提出し、学部長又は研究科長の許可を得なければならない。ただし、病気による場合は医師又は病院の診断書を休学願に添付しなければならない。
2　疾病のため就学することが適当でないと認められる者については、学部長又は研究科長は休学を命じることができる。
3　休学の期間は、学期初日から当該学期末までとし、願い出によって引き続き休学することができる。
4　前項の本学における休学の期間は、継続して２年を超えることはできない。ただし、特別の理由がある場合、引き続き１年以内に限って延長することがある。また、通算して４年を超えることはできない。
5　第３項の本大学院における休学の期間は、通算して２年を超えることはできない。
6　休学期間内は、学費の納付を免除する。ただし、在籍料としてその年度の学期ごとに10,000円を指定の日までに納付しなければならない。ただし、当該学期の学費を既に納付した者にあっては、在籍料の納付を免除する。

（復学）
第４条　休学者が復学しようとする場合は、所定の復学願に保証人連署の上その具体的な事由を記載して、学部長又は研究科長に提出し、学部長又は研究科長の許可を得なければならない。ただし、病気により休学していた者は、復学して支障のない旨の医師または病院の診断書を添付しなければならない。
2　復学の手続期日は、次の各号のとおりとする。
⑴　春学期末に休学期間が終了する者　休学期間中の８月25日まで
⑵　秋学期末に休学期間が終了する者　休学期間中の３月11日まで
3　復学の時期は学期の始めとする。
4　復学時の在学セメスターは、休学時の在学セメスターとする。
5　第２項において、所定の期日までに復学の手続きをしなかった場合は、その休学期間の末日をもって除籍とする。

（除籍）
第５条　次の各号のいずれかに該当する者は、除籍する。
⑴　所定の納入期日までに学費の納入を怠り、督促を受けてもなお納入しない者
⑵　休学期間終了までに所定の手続（復学、休学延長又は退学）をしない者
⑶　本学において、休学期間が通算４年または継続して2年を超えてなお復学又は退学しない者
⑷　本大学院において、休学期間が通算２年を超えてなお復学又は退学しない者
⑸　本学において、在学期間が８年を超える者
⑹　本大学院の修士課程において、在学期間が４年を超える者
⑺　本大学院の博士課程において、在学期間が、前期４年、後期６年を超える者
⑻　正当な理由がなく所定の手続を怠り、就学の意思がない者
⑼　死亡した者
⑽　留学生のうち、入学後相当な期間が経過したにもかかわらず、留学生ビザを取得できなかった者、あるいは在留資格の変更が認められなかった者
⑾　留学生のうち、既に取得している留学生ビザの更新が認められなかった者
2　除籍された者は、学生証を直ちに返還するとともに、図書等の借用、奨学金の受給等がある場合は、返還又は返済等の手続をしなければならない。
3　第１項第１号の学費未納による除籍の日は、次の各号のとおりとする。
⑴　春学期学費未納者については、前年度３月31日付とする。
⑵　秋学期学費未納者については、前春学期末日付とする。
4　第１項第２号から第9号までの除籍の日は、その事由の満了日付とする。
5　第１項第10号及び第11号の除籍の日は、外国人留学生内規の定めるところによる。

（復籍）
第６条　学費の未納によって除籍された者が、除籍処置の日から１カ月以内に所定の復籍願に保証人連署の上その具体的な事由を記載して学部長又は研究科長に提出した場合にのみ、学部長又は研究科長は復籍を許可することがある。
２　復籍を願い出る場合には、復籍料10,000円と未納の学費を納入しなければならない。

（退学）
第７条　病気、その他の事情により退学しようとする者は、所定の退学願に保証人連署の上その具体的な事由を記載して、学部長又は研究科長に提出し、学部長又は研究科長の許可を得なければならない。
２　退学する際には、学生証を直ちに返還するとともに、図書等の借用、奨学金の受給等がある者は、それぞれ返還又は返済等の手続を完了しておかなければならない。
３　退学の日は、次のとおりとする。
⑴　学部長又は研究科長が許可した日。
⑵　春学期学費未納者が退学願を提出した場合は、前年度末日付とする。
⑶　秋学期学費未納者が退学願を提出した場合は、春学期末日付とする。
⑷　当該学期履修科目の単位認定を希望する場合は、当該学期末日付とする。但し、学費の未納がある者は、当該学期までの学費の納入手続きを完了しなければならない。
⑸　当該学期における単位認定を受けようとする場合は、原則として、当該学期末日まで在籍していなければならない。但し、学費の未納がある者は、当該学期までの学費の納入手続きを完了しなければならない。

（再入学）
第８条　次の各号のいずれかに該当する者が離籍の日から２年以内に同一学部学科又は同一研究科専攻への再入学を志願する場合は、所定の再入学願に保証人連署の上その具体的な事由を記載して、学部長又は研究科長に提出し、学部長又は研究科長の許可を得なければならない。ただし、再入学しても残りの在学期間で卒業・修了の見込みがない者は、再入学の願い出を認めない。
⑴　退学した者
⑵　除籍となった者（ただし、第５条第１項第１号、第２号、第３号、第４号、第８号、第10号及び第11号に該当する者のみとし、第６条において復籍した者は除く。）
２　再入学の手続期日は、再入学を希望する前学期の１月末日又は７月末日までとする。
３　再入学を許可された者は、所定の日までに再入学金及び学費を納入しなければならない。ただし、所定の日までに再入学金と学費とを納入しない場合は、再入学を取り消す。
４　再入学金は、再入学した年度の入学金の２分の１とする。
５　再入学者の学費は、再入学した年次の額とする。
６　再入学の時期は学期始めとする。
７　再入学時のセメスターは、退学又は除籍時の履修状況その他を考慮して定める。
８　再入学を許可された者の在学期間及び休学期間は、退学等前の在学期間及び休学期間をそれぞれ通算し、学則第4条及び大学院学則第6条に定める在学期間を超えることができない。
９　再入学を許可された者には、学籍番号を付与し、学生証を交付し、学籍簿を作成する。
10　改組・転換等により、退学・除籍以前に在学していた学部学科又は研究科専攻が開設されていない場合は、再入学志願時に開設されている学部学科又は研究科専攻へ志願することができる。

（転学部・転学科）
第9条　本学の他学部に転学部を志願する者、又は本学の同一学部で転学科を志願する者は、所定の転学部又は転学科願に保証人連署の上その具体的な事由を記載して、志願学部長に提出し、志願学部長の許可を得なければならない。
２　転学部・転学科は、志望する学部・学科に欠員のある場合とする。
３　転学部・転学科の併願及び再転学部・再転学科は認めない。
４　転学部・転学科の時期は学期学年始めとし、学期途中の転学部・転学科はできない。
５　転学部・転学科の手続期日は、転学部・転学科を希望する前学期の１月15日又は６月15日までとする。
６　転学部・転学科を許可された者は、所定の日までに転学部手数料又は転学科手数料10,000円を納入しなければならない。ただし、手数料10,000円を納入しない場合は、転学部・転学科を取り消す。

7　転学部・転学科者の学費は、新所属学部学科の年次の額とする。
8　転学部・転学科時の在学セメスター及び既修得単位の認定については、新所属学部学科において、修学状況その他を考慮して定める。
9　転学部・転学科を許可された者には、現学生証と引換えに学部・学科変更した新学生証を再交付する。

（他大学等への転学）
第10条　学部学生が他の大学又は他の大学院等への入学又は転（編）入学を志望する場合は、所定の退学願に保証人連署の上その具体的な事由を記載して学部長に提出し、学部長および学長の許可を得なければならない。
2　大学院生が他の大学又は他の大学院等への入学又は転（編）入学を志望する場合は、所定の退学願に保証人連署の上その具体的な事由を記載して研究科長に提出し、研究科長および学長の許可を得なければならない。

学生留学内規　平成 11 年9月 17 日制定

第１条　京都先端科学大学学則(以下「学則」という。)第 14 条に基づく他の大学または短期大学への留学に関しては、学則に定めるもののほか、この内規による。
第２条　この内規にいう留学とは、他の大学または短期大学の特定の授業科目を履修するために現地で留まり、本学での履修は行わない場合をいう。
第３条　留学の対象となる大学等とは、国内においては留学(単位互換)に関して本学と協定を結んだ大学、外国においては留学に関して本学と協定または合意している大学等、あるいは学位授与権を有する大学等及びこれに相当すると学長が認めた教育機関をいう。
第４条　留学できる者は、本学に１年以上在学した者でなければならない。
第５条　留学する者の学籍上の取扱いは、留学とし、休学扱いしない。留学期間は在学期間に算入する。
第６条　留学期間は１年以内とする。
　2　外国留学で特別の事情がある場合は、１年以内に限り留学の延長を許可することがある。
第７条　留学を希望する場合は、所定の留学願及び留学予定先の留学許可を証する書類の写し等必要書類を当該学部長を通じて学長に提出しなければならない。
　2　留学の許可は、当該学部教授会の議を経て、学長がこれを行う。
第８条　外国留学で留学期間の延長を願い出る場合は、留学延長願を当該学部長を通じて学長に提出しなければならない。
第９条　留学を終了した者は、指定の留学終了届を当該学部長を通じて学長に提出しなければならない。
第10条　留学期間中に修得した授業科目の単位を本学の卒業要件の単位として認定を受けようとする者は、留学先大学等の発行した成績証明書等必要書類を添付した単位認定願を当該学部長に提出しなければならない。
　2　前項の単位の認定は、当該学部教授会の議を経て学部長がこれを行う。この場合の認定し得る単位数は 60 単位を限度とする。
第11条　年度の途中から留学する者は、留学前に科目登録し受講している授業科目について、留学終了後に再度科目登録し、継続して履修することができる。ただし、開講している科目に限る。春学期開講科目または秋学期開講科目についても、年度当初または秋学期登録期間に科目登録し、履修することを認める。
第12条　留学中の学費の取扱については、本学学費規程によるものとする。
第13条　留学している者が当初の目的を達成することができず、学生の本分に反する行為があったと認められるとき、学長は、当該学部教授会の議を経て、留学の許可を取り消すことができる。
第14条　外国の語学専門学校のうち、学長が認めた学校における 10 週間以上の語学研修も留学の対象とする。
　2　前項の留学を終えて、第 10 条に該当しない授業科目の履修を本学の科目の単位として認定を受けようとする者は、履修時間数及び修了証書等必要書類を添付した単位認定願を当該学部長に提出しなければならない。
第15条　この内規の改廃は、大学国際部会、各学部教授会及び大学評議会の議を経るものとする。
附則省略

第2部　教育課程

＜人文学部の教育目的＞

心理学と歴史学を中心とした人文学の諸分野の知識を身につけ新時代を担う新しい人材の育成を目的とする。

＜卒業認定・学位授与の方針＞（ディプロマ・ポリシー）

1．知識・理解

1.1 人文学に関する幅広い教養と専門的知識を身に付け，その豊かな人間性を変容する現代社会のために活用することができる。

2．技能

2.1 優れた文章読解能力を身に付け、自らの思考を口頭および文章で他者に伝えることができる。

2.2 他者と適切にコミュニケーションをとり、互いの理解を深めることができる。

3．思考・判断・表現

3.1 人文学の専門的学修を通じて獲得した知識・思考方法で、社会における問題を発見し、必要な情報を収集・分析し、対処することができる。

3.2 自ら設定した主題について、収集した資料を、客観的に分析しながら、批判的に考察できる。

4．関心・意欲・態度

4.1 人と社会に対する関心を強く持ち、さまざまな問題の解決に能動的に取り組むことができる。

4.2 現状の課題に対して、多様な他者と協働して取り組み、集団のなかで自分の役割を果たすことができる。

＜教育課程編成・実施の方針＞（カリキュラム・ポリシー）

1．教育課程編成

1.1 教育課程として、現代リベラルアーツ科目および各学部学科専門科目を配置します。

1.2 各学科では、専門的に学ぶ学修内容と目標とする進路に応じて学べるカリキュラムを設けます。

1.3 専門的知見に基づく主体的な行動力および問題解決力を育成し、各学科の学修を活かした進路に進むために、学科専門科目には、基礎的事項を学ぶ基礎科目、より高度な内容を学ぶ展開科目を設けます。

1.4 教職・学芸員・公認心理師など、専門職の資格を取得するための課程を設置します。

2．学修方法・学修過程

（学修方法）

2.1 4年間の学修課程では、教員が学生に寄り添って行う指導の下で、教養科目や専門科目を理論的に学修するだけでなく、体験学修およびキャリア学修も連動させながら実践的かつ能動的に学修します。

（学修過程）

2.2.1 講義形式科目で各分野の知識を学び、実験や実習形式科目で実践的な経験を積み、演習形式科目で情報伝達能力を高めます。

2.2.2 実験や演習などの集団作業を通じて、集団のなかで自分の役割を果たすことができる協働力を涵養します。社会との繋がりを重視しながら、多様なフィールドワーク科目も学修します。

2.2.3 大学での学びの意義づけも重視して、卒業後の人生を見据えたキャリア教育を学修します。

（学修過程）

2.3 人文学部では、専門的知見に基づく主体的な行動力および問題解決力の修得を目的として、両学科の専門科目を段階的に学修しながら卒業論文を作成します。

3．学修成果の評価

3.1 学修成果は、ディプロマ・ポリシーで定められた能力と、カリキュラムの各科目で設定される到達目標の達成度を示すものであり、アセスメント・プランに従って多様な方法で学修成果を評価します。

3.2 各科目の内容、到達目標、および評価方法・基準はシラバスに示され、到達目標の達成度が評価されます。

＜入学者受け入れの方針＞（アドミッション・ポリシー）

本学部の教育目的に即した人材を育成するために、本学部の教育目的を理解し、意欲と主体性をもって勉学に励むことができ、高等学校の教育課程で修得する基礎的な学力とそれを活用する力、他者とのコミュニケーション能力を備える人を求めます。

1．知識・技能

- 心理学、歴史学、文学、民俗学を学ぶために必要な基礎的な知識・能力を有する。

2．思考力・判断力・表現力

- 物事をじっくりと考え判断する能力があり、自分の考えを表現できる。

3．主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- 心理学や歴史文化に強い興味・関心があり、主体的に学ぶ強い意欲を持つ。
- 実践的な授業に、多様な人々と協働して取り組める。
- 国際人としての教養を身につけ、英語を中心とした語学力の向上を目指す意欲を持つ。

先端ツーリズムコースについて

〇コース概要

「ツーリズム」を核とし、京都の歴史や京都の文化、DX の知識を学ぶことができる学部横断型のコースとなり、各種観光業界、京都市・京都府の観光課などでも役立つ知識が学べます。

〇コース希望申請について

⑴説明会

オリエンテーション期間中にコース説明会を開催します。先端ツーリズムコース希望者は必ず参加してください。

⑵定員

定員は毎年度 20 名。

春学期の募集終了後に定員に空きがあった場合は秋学期に追加募集を行います。

⑶選抜

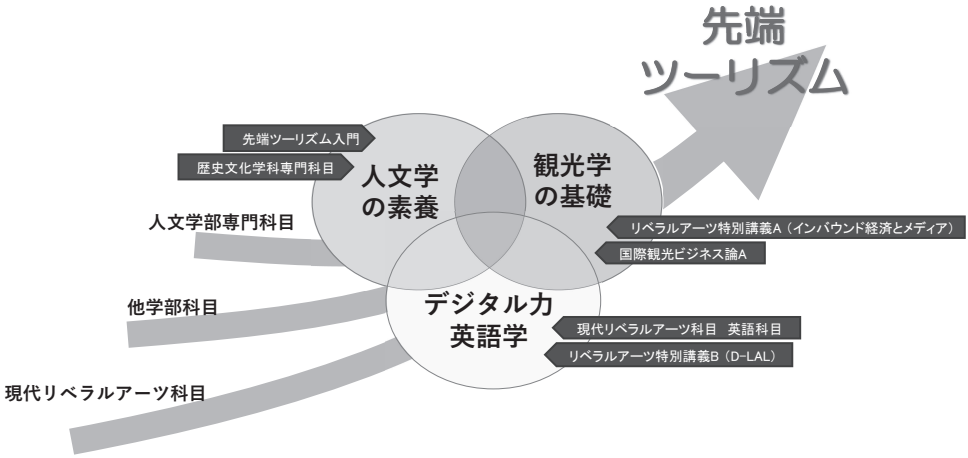
志望理由によって選抜を行います。志望理由の内容に依っては定員に満たなくてもコースへの所属が認められない場合があります。

〇コース修了要件

本コースについては所定の修了要件を満たすことで、修了証が授与される。

以下の条件をすべて満たすことで修了が認められる。

・必修科目群より 2 単位修得。
・選択必修科目群より 4 単位以上修得。
・選択推奨科目群より 8 単位以上修得。



先端ツーリズムコース対象科目一覧

科目区分	授業科目（２０２５年度から）	キャンパス	分類	修了要件	1年次	2年次	3年次	4年次
必修科目群	先端ツーリズム入門	太秦	必修	2単位	○	○	○	○
選択必修科目群	国際航空観光ビジネス論A	太秦	選択必修	2単位以上	○	○	○	○
	国際航空観光ビジネス論B	太秦			○	○	○	○
	リベラルアーツ特別講義A（インバウンド経済とメディア）	太秦/亀岡	選択必修	2単位以上	○	○		
	リベラルアーツ特別講義B（D-LAL）	太秦/亀岡			○	○		
選択推奨科目群	先端ツーリズム特別講義A（観光経済学）	太秦	選択	8単位以上		○	○	○
	先端ツーリズム特別講義B（くらし）	太秦				○	○	○
	先端ツーリズム特別講義C（食文化）	太秦				○	○	○
	先端ツーリズム特別講義D（祭礼）	太秦				○	○	○
	先端ツーリズム特別講義E（文化財）	太秦				○	○	○
	社会学概論	太秦			○	○	○	○
	経済学概論／総論	太秦			○	○	○	○
	哲学	太秦/亀岡			○	○	○	○
	歴史文化学概論A（京都文化）	太秦			○			
	歴史文化学概論B（歴史民俗学）	太秦			○			
	ビジネス実践D	太秦				○	○	○
	実践プロジェクト（観光）※通年開講、経済経営学部生のみ対象	太秦				○		
	実践プロジェクト（航空）※通年開講、経済経営学部生のみ対象	太秦				○		
	京都のビジネス	太秦			○	○	○	○
	京の食材	亀岡					○	○
	先端ツーリズム英語演習Ⅰ	太秦					○	○
	先端ツーリズム英語演習Ⅱ	太秦					○	○
	歴史学特別講義A	太秦				○	○	○
	歴史学特別講義B	太秦				○	○	○
	歴史学特別講義C	太秦				○	○	○
	歴史学特別講義D	太秦				○	○	○
	歴史学特別講義E	太秦				○	○	○
	歴史学特別講義F	太秦				○	○	○
	神話学	太秦				○	○	○
	口承文芸論	太秦				○	○	○
	歴史文化学特別講義A（妖怪文化）	太秦				○	○	○
	歴史文化学特別講義B（王朝文化）	太秦				○	○	○
	歴史文化学特別講義C（サブカルチャー）	太秦				○	○	○
	歴史文化学特別講義D（民俗文化財）	太秦				○	○	○
	歴史文化学演習A（伝統文化A）	太秦			○	○	○	○
	歴史文化学演習B（伝統文化B）	太秦			○	○	○	○

キャンパスについて特に記載がない場合は太秦キャンパスにて開講となります。

第１章　心理学科

教育目的と３つのポリシー

＜心理学科の教育目的＞

心理学及び周辺分野の基礎的知識と技能を十分に体得し、それを企業や心理臨床などの現場において柔軟に応用、問題解決できる能力を持った人材を育成する。

＜卒業認定・学位授与の方針＞（ディプロマ・ポリシー）

１．知識・理解

1.1 心理学・社会学に関する幅広い教養と専門的知識を身に付け、その豊かな人間性を変容する現代社会のために活用することができる。

２．技能

2.1 優れた文章読解能力を身に付け、自らの思考を口頭および文章で他者に伝えることができる。

2.2 心理学や社会学に関する知識を活用して、他者と適切にコミュニケーションをとり、互いの理解を深めることができる。

３．思考・判断・表現

3.1 統計や実験、調査結果の分析を通じて身に付けた論理的思考力をもとに、社会におけるさまざまな問題に対処することができる。

3.2 自ら設定した主題について、文献調査や実験などを通して収集した資料を、客観的に分析しながら、批判的に考察できる。

４．関心・意欲・態度

4.1 人と社会に対する関心を強く持ち、さまざまな問題の解決に能動的に取り組むことができる。

4.2 現状の課題に対して、協働して取り組み、集団のなかで自分の役割を果たすことができる。

＜教育課程編成・実施の方針＞（カリキュラム・ポリシー）

１．教育課程編成

1.1 人間を心理と社会の両面から学び、学科の学修を活かした進路に進むために、臨床心理学・心理学、社会・産業の３つのプログラムを設置します。

1.2 専門的知見に基づく主体的な行動力および問題解決力を育成し、各学科の学修を活かした進路に進むために、学科専門科目には、基礎的事項を学ぶ基礎科目、より高度な内容を学ぶ展開科目を設けます。

1.3 公認心理師、認定心理士、社会調査士など、専門職の資格を取得するために必要な科目を置きます。

２．学修方法・学修過程

（学修方法）

2.1 ４年間の学修課程では、教員が学生に寄り添って行う指導の下で、教養科目や専門科目を理論的に学修するだけでなく、体験学修およびキャリア学修も連動させながら実践的かつ能動的に学修します。

（学修過程）

2.2.1 講義形式科目で各分野の知識を学び、実験や実習形式科目で実践的な経験を積み、演習形式科目で情報伝達能力を高めます。

2.2.2 １年生から２年生にかけて学ぶ基礎科目で、各プログラムの基礎的な知識を横断的に学び、また２年生において、心理学や社会学の実験や調査の方法を学ぶため、各プログラムが提供する実験・演習科目を選択的に受講します。

2.2.3 ３年生・４年生で学ぶ少人数の専門演習においてきめ細やかな指導を受けながら、一定水準以上の卒業論文を作成します。

2.2.4 演習などにおける集団作業を通じて、集団のなかで自分の役割を果たすことができる協働力を涵養します。

2.2.5 大学での学びの意義づけも重視して、卒業後の人生を見据えたキャリア教育を学修します。

（学修過程）

2.3 心理学科では、専門的知見に基づく主体的な行動力および問題解決力の修得を目的として、両学科で設置されるプログラムの下で段階的に学修しながら卒業論文を作成します。

３．学修成果の評価

3.1 学修成果は、ディプロマ・ポリシーで定められた能力と、カリキュラムの各科目で設定される到達目標の達成度を示すものであり、アセスメント・プランに従って多様な方法で学修成果を評価します。

3.2 各科目の内容、到達目標、および評価方法・基準はシラバスに示され、到達目標の達成度が評価されます。

＜入学者受け入れの方針＞（アドミッション・ポリシー）

本学科の教育目的に示した人材を育成するために、明確な目的意識と情熱を持ち、高等学校で履修した教科・科目について、基礎的な知識を有し、自分の考えを伝えられる日本語力、さまざまな課題に積極的に挑戦しようとする意欲、活動に積極的に取り組む姿勢、コミュニケーションを効果的に図り、相互理解に努めようとする態度を有する人を求めます。

１．知識・技能

・ 高等学校で履修する国語、英語、地理歴史などについての基礎的な知識を持つ。

２．思考力・判断力・表現力

・ 人間の心理・行動・コミュニケーションについて考え判断する能力があり、自分の考えを表現できる。

３．主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

・ 心理学に強い興味・関心があり、未知のことを主体的に探究する強い意欲を持つ。

・ 心理学実験や発表などを、多様な人々と協働して取り組める。

心理学科　履修上の注意

Ⅰ．卒業に必要な単位数（卒業要件）

科目区分			必修	卒業要件	
現代リベラルアーツ科目	未来展望科目		–	2 単位以上	その他現代リベラルアーツ科目より 15 単位以上
	学際コア科目	人間と発達	–	2 単位以上	
		人間と社会			
		人間と自然			
		人間の複眼的理解			
	初年次科目		4	必修 4 単位	
	アカデミック・リテラシー科目		3	必修 3 単位を含む 5 単位以上	
	語学・異文化理解科目	英語科目	13	必修 13 単位を含む 14 単位以上 ※上級英語Ⅰ・Ⅱを除く	
		第二外国語科目	–		
		海外研修科目	–		
	スポーツ・ライフスキル科目		4	必修 4 単位	
	キャリア教育科目		4	必修 4 単位を含む 4 単位以上	
	フィールド・スタディ科目		–		
	他学部・他学科科目、大学コンソーシアム京都、放送大学などで履修した科目				
小計				**50 単位以上**	
学科専門科目	基礎科目		–	必修 10 単位のほか、「臨床心理学基礎演習」「社会・産業基礎演習」「心理学研究法」より 4 単位以上	その他学科専門科目より 60 単位以上
	展開科目		10		
小計				**74 単位以上**	
合計				**124 単位以上**	

※「現代リベラルアーツ科目」から修得した単位数が 50 単位を超過した場合、その超過単位数は進級要件に必要な単位数ならびに卒業要件に必要な単位数には含みません。

Ⅱ．卒業要件

★本学科では、以下の条件を満たすことを卒業要件とする

①「現代リベラルアーツ科目」のうち必修科目を含む 50 単位の修得
②学科専門科目の展開科目のうち必修 10 単位の修得
③学科専門科目の基礎科目および展開科目のうち、「臨床心理学基礎演習」「社会・産業基礎演習」「心理学研究法」より 4 単位以上を含む 64 単位以上の修得
④①から③までの条件を満たす総計 124 単位以上の修得

★本学科には、以下の必修科目を置く

・臨床心理学プログラム：「臨床心理学専門演習Ⅰ～Ⅳ」、「卒業研究」
・心理学プログラム　　：「心理学専門演習Ⅰ～Ⅳ」、「卒業研究」
・社会・産業プログラム：「社会・産業専門演習Ⅰ～Ⅳ」、「卒業研究」

★本学科では、以下の条件を満たすことを 2 年生から 3 年生への進級要件とする

3 年生進級時に、「臨床心理学基礎演習」「社会・産業基礎演習」「心理学研究法」より 4 単位以上の単位を修得していること。

★本学科では、以下の条件を満たすことを各プログラムへの配属要件とする

臨床心理学プログラム：「臨床心理学基礎演習」の単位を修得すること
心理学プログラム　　：「心理学研究法」の単位を修得すること
社会・産業プログラム：「社会・産業基礎演習」の単位を修得すること

★各プログラムを希望する学生の選考に際しては、プログラムごとに下記にあげる７科目の成績に準じて選抜を行う。時間割等の都合で２年生秋までに全て履修出来なかった場合は、卒業までに履修しておくことが望ましい

・臨床心理学プログラム
「心理学概論」、「臨床心理学概論」、「心理的アセスメント」、「心理学的支援法」、「教育・学校心理学」、「福祉心理学」

・心理学プログラム
「産業・組織心理学」、「社会・集団・家族心理学」、「感情・人格心理学」、「心理学研究法」、「知覚・認知心理学」、「心理学実験」、「神経・生理心理学」

・社会・産業プログラム
「産業・組織心理学」、「社会・集団・家族心理学」、「産業経済研究特別講義Ａ」、「経済学総論」、「社会調査法Ⅰ」、「社会調査法Ⅱ」、「コミュニケーション学特別講義Ａ」

★公認心理師受験資格を得るための学部科目の履修について

公認心理師の受験資格を得たい学生は、卒業までに公認心理師資格関連の科目の単位を取得しておかなければならない。なお、公認心理師に関する詳しいことは、別のページに記載した。

★心理学科で厳しい出席要件を課す科目

下記の科目では、単位を授与されるには、授業回数の５分の４以上の出席が必要です。
「心理的アセスメント」、「心理実習」、「心理学実験」、「心理演習」、「臨床心理学基礎演習」、「臨床心理学専門演習Ⅰ」、「臨床心理学専門演習Ⅱ」「臨床心理学専門演習Ⅲ」「臨床心理学専門演習Ⅳ」

Ⅲ．進級要件

	１年次終了時	２年次終了時	３年次終了時
修得単位数※	―	64 単位以上	―
単位修得が必要な「現代リベラルアーツ科目」必修科目	―	18 単位以上	―
単位修得が必要な専門科目	―	「臨床心理学基礎演習」「社会・産業基礎演習」「心理学研究法」より４単位以上	―
在学期間（休学期間は除く）	１年次に１年間在学していること。	２年次進級後に１年間在学していること。	３年次進級後に１年間在学していること。

※卒業要件に算入されない科目の修得単位数は含まれません。

Ⅳ．履修登録制限単位数

すべてのセメスターにおいて、履修登録できる単位数は24単位（年間48単位）です。通年科目については、原則、その登録期間にわたるセメスター数で割った単位数を履修登録しているとして処理されます。

１年生		２年生		３年生		４年生	
１ｾﾒｽﾀｰ	２ｾﾒｽﾀｰ	３ｾﾒｽﾀｰ	４ｾﾒｽﾀｰ	５ｾﾒｽﾀｰ	６ｾﾒｽﾀｰ	７ｾﾒｽﾀｰ	８ｾﾒｽﾀｰ
２４単位	２４単位	２４単位	２４単位	２４単位	２４単位	２４単位	２４単位
計４８単位		計４８単位		計４８単位		計４８単位	

・各セメスターの一括登録科目の単位は、履修登録制限単位数に含まれる。
・「海外研修ＩＡ・ＩＢ・ＩＣ・Ⅱ」、「企業実習Ⅰ・ⅡＡ・ⅡＢ・Ⅲ」、「インターンシップ実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「フィールド・スタディＡ・Ｂ・Ｃ」の単位は、履修登録制限単位数に含まれない。
・大学コンソーシアム京都の提供する科目の単位は、履修登録制限単位数に含まれない。但し、当該年度で３科目を上限とする。
・放送大学で履修する科目の単位は、履修登録制限単位数に含まれない。

★本学科においては、各学生が重点をおいて学びたい分野を、臨床心理学、心理学、社会・産業の３つに分けている。学科の科目には基礎科目と展開科目を配置しているが、どのプログラムをめざす学生であってもそれらの科目を履修することができる。ただし、「臨床心理学専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」・「心理学専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」・「社会・産業専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の３演習については、そのうちのいずれかのみを履修することができる。

Ⅴ．成績不振基準

履修を計画的に行い４年間で大学を卒業できるように指導するため、成績不振基準を設けています。成績不振基準を下回った場合、別途指導を受けることがあります。

年次	総修得単位数
1	1 セメスター終了時　14 以下
	2 セメスター終了時　30 以下
2	3 セメスター終了時　45 以下
	4 セメスター終了時　64 以下
3	5 セメスター終了時　75 以下
	6 セメスター終了時　96 以下
4	7 セメスター終了時　105 以下
	―
※この基準のみならず、進級要件を満たせない場合や出席不良、必修科目の単位を修得していない等も成績不振基準となる場合があります。	

人文学部心理学科科目一覧

《掲載事項について》
必修・・・必ず単位修得しなければならない科目（修得できなければ卒業できません）
配当年次・・・履修可能な年次を〇で表しています

現代リベラルアーツ科目一覧

科目区分			科目ナンバー	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	配当年次 1年次	配当年次 2年次	配当年次 3年次	配当年次 4年次	卒業要件単位数	
現代リベラルアーツ科目	未来展望科目		DF114201	コミュニティの再生		2	○	○	○	○	2単位以上	必修28単位を含む50単位以上（ただし、他学科、他学部などで修得した単位を含むことができる）
			DF114202	生命の歩みと未来		2	○	○	○	○		
			DF114203	多様性の尊重		2	○	○	○	○		
			DF114204	科学技術の革新		2	○	○	○	○		
			DF114205	クオリティ・オブ・ライフの探究		2	○	○	○	○		
			DF114206	環境と開発		2	○	○	○	○		
	学際コア科目	人間と発達	DC111201	文学		2	○	○	○	○	2単位以上	
			DC111202	哲学		2	○	○	○	○		
			DC111203	心理学入門		2	○	○	○	○		
			DC111204	現代史		2	○	○	○	○		
			DC111205	健康とライフステージ		2	○	○	○	○		
			DC111206	健康スポーツ理論		2	○	○	○	○		
		人間と社会	DC111207	経済学入門		2	○	○	○	○		
			DC111208	経営学入門		2	○	○	○	○		
			DC111209	法学		2	○	○	○	○		
			DC111210	人権の歴史と現代		2	○	○	○	○		
			DC111211	日本国憲法		2	○	○	○	○		
			DC111212	地政学		2	○	○	○	○		
			DC111213	文化社会学		2	○	○	○	○		
		人間と自然	DC111214	生物学入門		2	○	○	○	○		
			DC111215	微生物の世界		2	○	○	○	○		
			DC111216	京の食材		2	○	○	○	○		
			DC111217	科学技術史		2	○	○	○	○		
			DC111218	分子遺伝学		2	○	○	○	○		
			DC111219	数理統計学		2	○	○	○	○		
		人間の複眼的理解	DC111220	生命倫理学		2	○	○	○	○		
			DC111221	ビジネス・データサイエンス入門		2	○	○	○	○		
			DC111222	メディア・リテラシー		2	○	○	○	○		
			DC111223	リベラルアーツ特別講義A		2	○	○	○	○		
			DC111224	リベラルアーツ特別講義B		2	○	○	○	○		
			DC111225	リベラルアーツ特別講義C		2	○	○	○	○		
			DC111226	リベラルアーツ特別講義D		2	○	○	○	○		
	初年次科目		DU134201	初年次ゼミⅠ	2		○				必修4単位	
			DU134202	初年次ゼミⅡ	2		○					
	アカデミック・リテラシー科目		DA134101	日本語リテラシーⅠ	1		○				必修3単位を含む5単位以上	
			DA134102	日本語リテラシーⅡ	1		○					
			DA132103	情報リテラシーⅠ	1		○					
			DA132104	情報リテラシーⅡ		1	○	○				
			DA232105	数的処理基礎		1		○	○			
			DA232206	AI・データサイエンス基礎		2		○	○			
			DA234207	アカデミック・ライティングⅠ		2		○	○	○		
			DA235208	アカデミック・ライティングⅡ		2		○	○	○		

科目区分			科目ナンバー	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	配当年次 1年次	配当年次 2年次	配当年次 3年次	配当年次 4年次	卒業要件単位数	
現代リベラルアーツ科目	語学・異文化理解科目	英語科目	DE131201	英語ⅠA	2		○				必修13単位のほか、英語ⅢA又は英語ⅢBから1単位以上	必修28単位を含む50単位以上（ただし、他学科、他学部などで修得した単位を含むことができる）
			DE131202	英語ⅠB	2		○					
			DE231203	英語ⅡA	2			○				
			DE231204	英語ⅡB	2			○				
			DE331105	英語ⅢA		1			○			
			DE331106	英語ⅢB		1			○			
			DE133107	英会話A	1		○					
			DE233108	英会話B	1			○				
			DE233109	英会話C	1			○				
			DE333110	英会話D	1				○			
			DE333111	英会話E	1				○			
			DE333112	上級英語Ⅰ		1	○	○	○	○		
			DE333113	上級英語Ⅱ		1	○	○	○	○		
		第二外国語科目	DL133101	ベーシック中国語Ⅰ		1	○	○	○	○		
			DL133102	ベーシック中国語Ⅱ		1	○	○	○	○		
			DL133103	ベーシック韓国語Ⅰ		1	○	○	○	○		
			DL133104	ベーシック韓国語Ⅱ		1	○	○	○	○		
			DL133105	ベーシックドイツ語Ⅰ		1	○	○	○	○		
			DL133106	ベーシックドイツ語Ⅱ		1	○	○	○	○		
			DL133107	ベーシックフランス語Ⅰ		1	○	○	○	○		
			DL133108	ベーシックフランス語Ⅱ		1	○	○	○	○		
			DL133109	ベーシックスペイン語Ⅰ		1	○	○	○	○		
			DL133110	ベーシックスペイン語Ⅱ		1	○	○	○	○		
		海外研修科目	DK156201	海外研修ⅠA		2	○	○	○	○		
			DK156202	海外研修ⅠB		2	○	○	○	○		
			DK156203	海外研修ⅠC		2	○	○	○	○		
			DK156404	海外研修Ⅱ		4	○	○	○	○		
	スポーツ・ライフスキル科目		DS146101	SLSⅠ	1		○				必修4単位	
			DS146102	SLSⅡ	1		○					
			DS247103	SLSⅢ	1			○				
			DS247104	SLSⅣ	1			○				
	キャリア教育科目		DR114201	キャリアデザインⅠ	2		○				必修4単位	
			DR114202	キャリアデザインⅡ	2		○					
			DR236103	キャリア形成実践演習Ⅰ		1		○				
			DR236104	キャリア形成実践演習Ⅱ		1			○			
			DR157105	企業実習Ⅰ		1	○	○				
			DR157206	企業実習ⅡA		2	○	○				
			DR157207	企業実習ⅡB		2	○	○				
			DR157408	企業実習Ⅲ		4	○	○				
			DR357109	インターンシップ実習Ⅰ		1			○	○		
			DR357210	インターンシップ実習Ⅱ		2			○	○		
			DR357411	インターンシップ実習Ⅲ		4			○	○		
	フィールド・スタディ科目		DD157201	フィールド・スタディA		2	○	○	○	○		
			DD157202	フィールド・スタディB		2	○	○	○	○		
			DD157203	フィールド・スタディC		2	○	○	○	○		

人文学部心理学科科目一覧

《掲載事項について》
必修・・・必ず単位修得しなければならない科目（修得できなければ卒業できません）
配当年次・・・履修可能な年次を○で表しています

学科専門科目一覧

区分		科目ナンバー	授業科目	単位数		配当年次				卒業要件単位数	
				必修	選択	1年次	2年次	3年次	4年次		
学科専門科目	基礎科目	PB111201	心理学概論		2	○	○	○	○	必修10単位のほか臨床心理学基礎演習、社会・産業基礎演習および心理学研究法から4単位以上（※印の科目）	必修10単位を含む74単位以上
		PB111202	臨床心理学概論		2	○	○	○	○		
		PB233203	臨床心理学基礎演習		2※		○				
		PB244104	心理学実験		1		○				
		PB111205	社会・産業基礎		2	○	○	○	○		
		PB235206	社会・産業基礎演習		2※		○				
	展開科目	PI211201	教育・学校心理学		2		○	○	○		
		PI111202	障害者・障害児心理学		2	○	○	○	○		
		PI244203	心理的アセスメント		2		○	○	○		
		PI214204	心理学的支援法		2		○	○	○		
		PI211205	福祉心理学		2		○	○	○		
		PI211206	健康・医療心理学		2		○	○	○		
		PI211207	司法・犯罪心理学		2		○	○	○		
		PI311208	精神疾患とその治療		2			○	○		
		PI311209	関係行政論		2			○	○		
		PI311210	社会福祉論		2			○	○		
		PI315211	公認心理師の職責		2			○	○		
		PI314212	深層心理学		2			○	○		
		PI311213	人体の構造と機能及び疾病		2			○	○		
		PI337214	臨床心理学専門演習Ⅰ	2				○			
		PI337215	臨床心理学専門演習Ⅱ	2				○			
		PI435216	臨床心理学専門演習Ⅲ	2					○		
		PI435217	臨床心理学専門演習Ⅳ	2					○		
		PI337218	心理演習		2			○			
		PI447219	心理実習		2				○		
		PI111220	社会・集団・家族心理学		2	○	○	○	○		
		PI111221	産業・組織心理学		2	○	○	○	○		
		PI111222	感情・人格心理学		2	○	○	○	○		
		PI111223	発達心理学		2	○	○	○	○		
		PI211224	心理学研究法		2※		○	○	○		
		PI211225	神経・生理心理学		2		○	○	○		
		PI211226	知覚・認知心理学		2		○	○	○		
		PI211227	学習・言語心理学		2		○	○	○		
		PI214228	統計分析の基礎Ⅰ		2		○	○	○		
		PI214229	統計分析の基礎Ⅱ		2		○	○	○		
		PI314230	心理学統計法		2			○	○		
		PI344131	心理学上級実験		1			○	○		
		PI344132	心理学応用実験A		1			○	○		
		PI344133	心理学応用実験B		1			○	○		
		PI344134	心理学応用実験C		1			○	○		
		PI337235	心理学専門演習Ⅰ	2				○			
		PI337236	心理学専門演習Ⅱ	2				○			
		PI437237	心理学専門演習Ⅲ	2					○		
		PI437238	心理学専門演習Ⅳ	2					○		
		PI111239	社会学総論		2	○	○	○	○		
		PI111240	経済学総論		2	○	○	○	○		
		PI311241	コミュニケーション社会学		2			○	○		
		PI311242	コミュニティ社会学		2			○	○		
		PI312243	社会意識論		2			○	○		
		PI214244	社会調査法Ⅰ		2		○	○	○		
		PI214245	社会調査法Ⅱ		2		○	○	○		
		PI215246	質的社会調査法		2		○	○	○		
		PI344147	社会調査実習Ⅰ		1			○	○		
		PI344148	社会調査実習Ⅱ		1			○	○		
		PI111249	社会学特別講義A		2	○	○	○	○		
		PI214250	社会学特別講義B		2		○	○	○		
		PI311251	社会学特別講義C		2			○	○		

区　分		科目ナンバー	授 業 科 目	単位数		配当年次				卒業要件単位数	
				必修	選択	1年次	2年次	3年次	4年次		
学科専門科目	展開科目	PI211252	コミュニケーション学特別講義A		2		○	○	○	必修10単位のほか臨床心理学基礎演習、社会・産業基礎演習および心理学研究法から4単位以上（※印の科目）	必修10単位を含む74単位以上
		PI311253	コミュニケーション学特別講義B		2			○	○		
		PI311254	消費研究特別講義A		2			○	○		
		PI311255	消費研究特別講義B		2			○	○		
		PI311256	消費研究特別講義C		2			○	○		
		PI211257	産業経済研究特別講義A		2		○	○	○		
		PI311258	産業経済研究特別講義B		2			○	○		
		PI311259	産業経済研究特別講義C		2			○	○		
		PI311260	産業経済研究特別講義D		2			○	○		
		PI333261	社会・産業専門演習Ⅰ	2				○			
		PI333262	社会・産業専門演習Ⅱ	2				○			
		PI437263	社会・産業専門演習Ⅲ	2					○		
		PI437264	社会・産業専門演習Ⅳ	2					○		
		PI462265	卒業研究	2					○		

『公認心理師』受験資格取得のための単位修得について

１、公認心理師とは

公認心理師法第１条では、「公認心理師の資格を定めて、その業務の適正を図り、もって国民の心の健康の保持増進に寄与することを目的とする」とされています。わかりやすく言うと国民の心の健康をサポートするということです。

公認心理師とは、公認心理師登録簿への登録を受け、公認心理師の名称で、保健医療（病院など）、福祉（子ども、障害者、高齢者などへの援助）、教育（学校など）その他の分野（犯罪や産業ほか）において、心理学に関する専門的知識や技術をとおして、次にあげるような仕事をする人のことをいいます。

（1）心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析をする
（2）心理に関する支援を要する者に対して、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助を行う
（3）心理に関する支援を要する者の関係者に対して、相談及び助言、指導その他の援助を行う
（4）心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供を行う
（以上は公認心理師法第２条をわかりやすく書き直したものです。）

この法律では、「受験に必要な科目の単位を学部で修得し大学院でも修得した人」だけでなく、「受験に必要な科目の単位を学部で修得し、卒業後一定期間(２～３年)の実務経験を積んだ人」にも受験資格を与えることにしています。

しかし、「卒業後一定期間の実務経験を積めるところ」の要件を満たす実習機関（最新情報は厚労省 HP 参照）はごくわずかであり、受験資格を得るためには大学院進学が中心となります。

まとめると、公認心理師受験資格取得の方法は、①必要な単位を全て学部で修得して大学院に進学する（学部卒業後すぐに大学院に進学するか、あるいは何年後かは問いません）か、②同じく必要な単位を全て学部で修得して上記実習機関で実務経験を積むかのどちらかを考えることになります。

①、②は受験資格ですので、それらの後に公認心理師試験を受験し、合格し、公認心理師登録簿に登録されて初めて公認心理師として仕事ができます。

２、本学における公認心理師の資格科目

公認心理師になるためには、公認心理師法で定められた科目を修得する必要があります。公認心理師受験資格を得るためには、卒業までに次頁の表のすべての科目・単位（25 科目 49 単位）を修得しておかなければなりません。

３、「心理実習」について

これらの公認心理師科目のうち、４年生以上に配当されている「心理実習」については、以下のことに注意してください。

①３年次終了時点までに、以下の７科目１４単位を含む、公認心理師科目２４科目中１８科目を修得しておくこと。「教育・学校心理学」、「産業・組織心理学」、「福祉心理学」、「健康・医療心理学」、「司法・犯罪心理学」、「精神疾患とその治療」、「心理演習」（これらの科目は公認心理師科目のうち、実習先機関の業務に関連するものです）。なお、本人の責任ではない事情があって上記の科目を修得できなかった場合は、科目担当教員に申し出て、面談を受けてください。成績や面談の結果を総合的に判断し、受講を許可する場合があります。

②「心理実習」は受講できる人数が 30 名以下と限られています。受講希望者が多い場合には、GPA や受講希望理由などを総合的に判断して受講者を決定します。

③欠席や遅刻、不適切な言動などにより、科目担当教員が「心理実習」における学外実習参加を許可しないと判断した場合、それ以降の「心理実習」の受講を認めません。

注）なお、「臨床心理士」になるために必要な学部の科目はありません。「臨床心理士」は大学院で必要な科目の単位を修得することによって受験できる資格です。
「公認心理師」と「臨床心理士」は異なる資格ですが、上記の「心理に関する支援を必要とする人への援助」を専門的な職業として志したい人は、両方の資格が取れるように取り組みましょう。

公認心理師の国家試験受験資格取得のために修得が必要な学部科目（25 科目 49 単位）

学年	科目名	単位
1	心理学概論	2
	産業・組織心理学	2
	社会・集団・家族心理学	2
	発達心理学	2
	感情・人格心理学	2
	臨床心理学概論	2
	障害者・障害児心理学	2
2	心理学研究法	2
	心理的アセスメント	2
	心理学的支援法	2
	福祉心理学	2
	心理学実験	1
	教育・学校心理学	2
	知覚・認知心理学	2
	健康・医療心理学	2
	神経・生理心理学	2
	司法・犯罪心理学	2
	学習・言語心理学	2
3	精神疾患とその治療	2
	公認心理師の職責	2
	心理演習	2
	心理学統計法	2
	関係行政論	2
	人体の構造と機能及び疾病	2
4	心理実習	2

公益社団法人日本心理学会「認定心理士」について

どのような資格か

認定心理士は日本心理学会が認定する資格ですが、実際の認定手続は学会から認定心理士認定の審査に関する作業の委嘱を受けている「日本心理学会認定心理士資格認定委員会」が行います。

この資格は、4 年制大学における心理学科、またはそれに準ずる課程を修了した人（ないしは、それと同等の学力を有すると認められた人）に対して与えられるものです。広く心理学関係者を対象とした心理学関係の資格のなかでも最も一般的な資格です。いちど認定を受ければ、更新手続きもなく、資格を失うこともありません。

京都先端科学大学人文学部心理学科では、この認定心理士資格が取得できることを前提として心理学関係の科目を整備しています。

認定申請方法

認定心理士の認定申請は、資格取得希望者が個人の資格で申し込むこと

① 公益社団法人日本心理学会認定委員会から申請書類を取り寄せる。または、ホームページより申請書類をダウンロードするか、Web 上での資格申請も可能(※一部書類(証明書等)は郵送が必要)
② 資格認定申請書、履歴書、取得単位表、実験実習リスト、審査料払込･ID カード用写真用紙(審査料 11,000 円(※要確認) を払い込む）以上の指定様式書類と基礎科目のシラバスコピー、官製はがき、卒業証明書(大学発行の書類)を準備し送付する
③ 認定委員会で審査され、所定の基準に達していれば合格となる
④ 認定通知を受けた時点で認定料 33,000 円(※要確認)を払い込む
⑤ 認定証が申請者に交付される

なお、卒業見込みの人が認定申請を行う場合は仮認定の申請となります。この場合、審査に合格すると仮認定証が交付され、卒業後に卒業証明書を送付することで正式認定となります。審査料、認定料は変わりません。

取得条件

① 4 年制大学を卒業して学士の学位を取得しているか、あるいは大学院修士課程または博士課程前期を修了して修士の学位を取得していること
② 16 歳以降少なくとも 2 年以上本邦に滞在した経験を有していること
③ 認定委員会が指定する心理学関係の所定の単位を修得していること
④ 審査料及び認定料の払い込みが完了していること

※なお、詳細については下記ホームページ参照、または各自で新しい資料を取り寄せ研究すること。

➢公益社団法人日本心理学会認定委員会の連絡先は次のとおりです。
〒113-0033
東京都文京区本郷 5-23-13　田村ビル内
TEL03-3814-3962
https://www.psych.or.jp/qualification/index.html

➢認定心理士及び認定心理士資格申請に関する問い合わせ先は次のとおりです。
Email jpanintei@psych.or.jp

所定単位と京都先端科学大学の対応科目

※ 年次により、単位変更があります。自分が実際に履修した科目名と単位数を確認すること。

① 基礎科目　下記 a.は４単位以上、c は４単位以上で b･c の合計が８単位以上修得し、**a～c の合計が 12 単位以上となること**

領域	京都先端科学大学での対応科目	認定単位	必要単位数
a.心理学概論	心理学概論(2)	２単位(必須)	④単位以上 ※但し副次科目は最大２単位(2 科目)迄とする
	臨床心理学概論(2) 感情・人格心理学(2)	副次主題として各１単位	
b.心理学研究法	心理学研究法(2)、心理学統計法(2)	各２単位	c 領域が④単位以上かつ、b・c 領域の合計が⑧単位以上
	統計分析の基礎Ⅰ(2)、統計分析の基礎Ⅱ(2)	副次主題各１	
c.心理学実験実習	心理学実験(1) 心理学応用実験Ａ・Ｂ・C(各 1)	各１単位	

② 選択科目　下記５領域のうち３領域以上で、それぞれが少なくとも４単位以上。**５領域計 16 単位以上。**

領域名	京都先端科学大学での対応科目	認定単位	必要単位数
d.知覚心理学・学習心理学	知覚・認知心理学(2) 学習・言語心理学(2)	※各２単位	d～h の５領域のうち、３領域以上で各領域④単位以上、合計⑯単位以上 ※a 領域にて、副次主題として申請する科目は除く (重複不可)
e.比較心理学・生理心理学	神経・生理心理学(2)	２単位	
f.教育心理学・発達心理学	教育・学校心理学(2) 発達心理学(2)	※各２単位	
g.臨床心理学・人格心理学	障害者・障害児心理学(2) 心理的アセスメント(2) 福祉心理学(2)、健康・医療心理学(2) 司法・犯罪心理学(2)、深層心理学(2) 心理学的支援法(2)、感情・人格心理学(2)	※各２単位	
h.社会心理学・産業心理学	産業・組織心理学(2) 社会・集団・家族心理学(2)	※各２単位	

③ その他の科目　残りの８単位は a～h の任意の科目または③その他の科目で充当する

領域名	京都先端科学大学での対応科目	認定単位	必要単位数
i.心理学関連科目	・臨床心理学専門演習 Ⅰ(2)、Ⅱ(2)、Ⅲ(2)、Ⅳ(2) ・心理学専門演習 Ⅰ(2)、Ⅱ(2)、Ⅲ(2)、Ⅳ(2) 心理実習(2)、心理演習(2)	各２単位	
	心理学上級実験(1)	１単位	
			総合計 36 単位以上

一般社団法人社会調査協会「社会調査士」について

社会調査士とは

社会調査士は、一般社団法人社会調査協会が認定する資格のうち、学部卒業レベルの資格で、社会調査に関する基礎的な知識・技能、相応の応用力と倫理観を身につけることを要求するものです。

社会調査士を取得するには、社会調査士資格認定機構が定める「標準カリキュラム」に対応する授業科目単位（次項の A～G）を取得しなければなりません。対応科目の選択肢が 1～2 科目しかありませんので、1、2 年生のうちから計画的に履修してください（ただし、E および F はどちらか一方で構いません）。

以下で資格取得方法を説明しますが、変更される場合がありますので、資格申請に際して必ず、社会調査協会ホームページ（https://jasr.or.jp/）で確認してください。

標準カリキュラムと対応科目

標準カリキュラム	対応科目
A. 社会調査の基本的事項に関する科目	社会調査法 I
B. 調査設計と実施方法に関する科目	社会調査法 II
C. 基本的な資料とデータの分析に関する科目	統計分析の基礎 I
D. 社会調査に必要な統計学に関する科目	統計分析の基礎 II
E. 量的データ解析の方法に関する科目*	心理学統計法
F. 質的な分析の方法に関する科目*	質的社会調査法
G. 社会調査士の実習を中心とする科目	社会調査実習 I、II（同一年度）

*E、F はどちらか一方で構いません。

資格要件

社会調査士

上記標準カリキュラムに対応する科目を単位取得し、単位認定を受けることが必要です。学部卒業を要件とします。

社会調査士（キャンディデイト）

在学中は正規資格ではなく、「社会調査士（キャンディデイト）証明書」が交付されます。以下の 3 点が要件です。

1） 在学期間が 1 年以上であること。
2） 申請時までに、標準カリキュラム科目を 3 科目以上単位取得していること（ただし、E/F 科目は選択制であるため 1 科目と数える）。
3） 2)の単位取得済み科目と今年度履修中の科目の合計が 5 科目以上であること。
＊ 「社会調査士」、「社会調査士（キャンディデイト）」とも、認定審査手数料は 16,500 円です。また、「社会調査士（キャンディデイト）」から「社会調査士」資格に変更する際の資格変更手数料は 5,500 円です。（いずれも税込み）

認定申請方法

1） 対応科目と、自身が取得した科目との対応関係を確認する。
2） 社会調査協会ホームページのうち、「社会調査士申請手順」（https://jasr.or.jp/for_students/guidance/capaappl_sr/）または「社会調査士（キャンディデイト）申請手順」（https://jasr.or.jp/for_students/guidance/capaappl_promis/）のいずれか該当するページを参照し、必要書類を用意する。
3） 本学 HP「証明書発行について」のページより「コンビニ証明書発行サービス」にログインし、成績証明書（科目履修中の場合は、成績証明書（含単位取得見込証明書））の発行を申請する。
4） 認定審査手数料を社会調査協会に納付し、振込用紙コピーを 2)の様式裏に貼付する。
5） 申請書類一式を教務センターに提出する。
＊ 提出締め切りは、「社会調査士（キャンディデイト）」が 6 月 10 日と 10 月 10 日（年 2 回）、「社会調査士」が 3 月 31 日です（詳細は、「先端なび」等でお知らせします）。

参考資料

一般社団法人社会調査協会ホームページ（https://jasr.or.jp/）
パンフレット「社会調査士資格制度」

一般社団法人社会調査協会連絡先

〒113-0033　東京都文京区本郷 5-25-18-3F
電話　03-6273-9784
E-mail　sck.main@jasr.or.jp

第２章　歴史文化学科

教育目的と３つのポリシー

＜歴史文化学科の教育目的＞

歴史学及び周辺分野の基礎的知識と調査研究技能を十分に体得し、それを実社会において問題解決に活用できる人材を育成する。

＜卒業認定・学位授与の方針＞（ディプロマ・ポリシー）

１．知識・理解

1.1 歴史文化に関する幅広い教養と専門的知識を身に付け、その豊かな人間性を変容する現代社会のために活用することができる。

２．技能

2.1 優れた文章読解能力を身に付け、自らの思考を口頭および文章あるいはデジタル媒体で他者に伝えることができる。

2.2 発表や聞きとり調査の経験などを活用して、他者と適切にコミュニケーションをとり、互いの理解を深めることができる。

３．思考・判断・表現

3.1 歴史文化に関する専門的学修を通じて獲得した知識・思考方法で、社会における問題を発見し、必要な情報を収集・分析し、対処することができる。

3.2 自ら設定した主題について、文献調査やフィールドワークなどを通して収集した資料を、客観的に分析しながら、批判的に考察できる。

４．関心・意欲・態度

4.1 現代社会やその歴史文化に対する関心を強く持ち、さまざまな問題の解決に能動的に取り組むことができる。

4.2 現状の課題に対して、協働して取り組み、集団のなかで自分の役割を果たすことができる。

＜教育課程編成・実施の方針＞（カリキュラム・ポリシー）

１．教育課程編成

1.1 学科の学修を活かした進路に進むため、歴史文化を多様な視点から学びます。

1.2 専門的知見に基づく主体的な行動力および問題解決力を育成するために、学科専門科目には、基礎的事項を学ぶ基礎科目、より高度な内容を学ぶ展開科目を設けます。

1.3 教職・学芸員という専門職の資格を取得するための課程を設置します。

２．学修方法・学修過程

（学修方法）

2.1 ４年間の学修課程では、教員が学生に寄り添って行う指導の下で、教養科目や専門科目を理論的に学修するだけでなく、体験学修およびキャリア学修も連動させながら実践的かつ能動的に学修します。

（学修過程）

2.2.1 講義形式科目で各分野の知識を学び、実習形式科目で実践的な経験を積み、演習形式科目で情報伝達能力を高めます。

2.2.2 1年生秋から2年生春にかけて学ぶ必修の授業で、基礎的な知識を横断的に学び、また2年生から歴史文化学地域探究演習を複数学ぶことで、複眼的な視点を涵養しながら、歴史文化学基礎ゼミの選択を行います。

2.2.3 2年生で学ぶ基礎ゼミにおいて、各分野の論文や資料読解の基礎力を高め、3年生・4年生で学ぶ少人数の専門ゼミにおいて、きめ細やかな指導を受けながら、一定水準以上の卒業論文を作成します。

2.2.4 演習などにおける集団作業を通じて、集団のなかで自分の役割を果たすことができる協働力を涵養します。

2.2.5 大学での学びの意義づけも重視して、卒業後の人生を見据えたキャリア教育を学修します。

（学修過程）

2.3 歴史文化学科では、専門的知見に基づく主体的な行動力および問題解決力の修得を目的として、段階的に学修しながら卒業論文を作成します。

３．学修成果の評価

3.1 学修成果は、ディプロマ・ポリシーで定められた能力と、カリキュラムの各科目で設定される到達目標の達成度を示すものであり、アセスメント・プランに従って多様な方法で学修成果を評価します。

3.2 各科目の内容、到達目標、および評価方法・基準はシラバスに示され、到達目標の達成度が評価されます。

＜入学者受け入れの方針＞（アドミッション・ポリシー）

本学科の教育目的に示した人材を育成するために、明確な目的意識と情熱を持ち、高等学校で履修した教科・科目について、基礎的な知識を有し、自分の考えを伝えられる日本語力、さまざまな課題に積極的に挑戦しようとする意欲、活動に積極的に取り組む姿勢、コミュニケーションを効果的に図り、相互理解に努めようとする態度を有する人を求めます。

１．知識・技能

- 高等学校で履修する国語、英語、地理歴史などについての基礎的な知識を持つ。

２．思考力・判断力・表現力

- 歴史文化について考え判断する能力があり、自分の考えを表現できる。

３．主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- 歴史文化に強い興味・関心があり、未知のことを主体的に探究する強い意欲を持つ。
- 発表やフィールドワークなどを、多様な人々と協働して取り組める。

歴史文化学科　履修上の注意

Ⅰ　卒業に必要な単位数

科目区分			必修	卒業要件	
現代リベラルアーツ科目	未来展望科目		–	2 単位以上	その他現代リベラルアーツ科目より 15 単位以上
	学際コア科目	人間と発達	–	2 単位以上	
		人間と社会			
		人間と自然			
		人間の複眼的理解			
	初年次科目		4	必修 4 単位	
	アカデミック・リテラシー科目		3	必修 3 単位を含む 5 単位以上	
	語学・異文化理解科目	英語科目	13	必修 13 単位を含む 14 単位以上 ※上級英語Ⅰ・Ⅱを除く	
		第二外国語科目	–		
		海外研修科目	–		
	スポーツ・ライフスキル科目		4	必修 4 単位	
	キャリア教育科目		4	必修 4 単位を含む 4 単位以上	
	フィールド・スタディ科目		–		
	他学部・他学科科目、大学コンソーシアム京都、放送大学などで履修した科目				
小計				**50 単位以上**	
学科専門科目	基礎科目		10	必修 10 単位	その他学科専門科目より 62 単位以上
	展開科目		2	必修 2 単位	
小計				**74 単位以上**	
合計				**124 単位以上**	

※「現代リベラルアーツ科目」から修得した単位数が 50 単位を超過した場合、その超過単位数は進級要件に必要な単位数ならびに卒業要件に必要な単位数には含みません。

Ⅱ．卒業要件

★本学科では、以下の条件を満たすことを卒業要件とする

①「現代リベラルアーツ科目」のうち必修科目を含む 50 単位の修得

②　学科専門科目のうち、必修１２単位を含む 74 単位の取得

③①から②までの条件を満たす総計 124 単位以上の修得

・本学科には、以下の必修科目を置く

日本史概説Ａ・Ｂ、歴史文化学概論Ａ・Ｂ、デジタル人文学入門、卒業研究

Ⅲ．進級要件

	１年次終了時	２年次終了時	３年次終了時
修得単位数※	―	64 単位以上	―
単位修得が必要な「現代リベラルアーツ科目」必修科目	―	18 単位以上	―
単位修得が必要な専門科目	―	―	―
在学期間（休学期間は除く）	１年次に１年間在学していること。	２年次進級後に１年間在学していること。	３年次進級後に１年間在学していること。

※卒業要件に算入されない科目の修得単位数は含まれません。

Ⅴ．履修登録制限単位数

すべてのセメスターにおいて、履修登録できる単位数は24単位（年間48単位）です。通年科目については、原則、その登録期間にわたるセメスター数で割った単位数を履修登録しているとして処理されます。

１年生		２年生		３年生		４年生	
１ｾﾒｽﾀｰ	２ｾﾒｽﾀｰ	３ｾﾒｽﾀｰ	４ｾﾒｽﾀｰ	５ｾﾒｽﾀｰ	６ｾﾒｽﾀｰ	７ｾﾒｽﾀｰ	８ｾﾒｽﾀｰ
２４単位	２４単位	２４単位	２４単位	２４単位	２４単位	24 単位	24 単位
計４８単位		計４８単位		計４８単位		計４８単位	

・各セメスターの一括登録科目の単位は、履修登録制限単位数に含まれる。
・教職課程の「教育の基礎的理解に関する科目」と「教科の指導法に関する科目」の単位および、博物館学芸員課程の「必修科目」と「選択科目の一部」の単位は、履修登録制限、卒業必要単位に含まれない。
・「海外研修ⅠＡ・ⅠＢ・ⅠＣ・Ⅱ」、「企業実習Ⅰ・ⅡＡ・ⅡＢ・Ⅲ」、「インターンシップ実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「フィールド・スタディＡ・Ｂ・Ｃ」の単位は、履修登録制限単位数に含まれない。
・大学コンソーシアム京都の提供する科目の単位は、履修登録制限単位数に含まれない。但し、当該年度で３科目を上限とする。
・放送大学で履修する科目の単位は、履修登録制限単位数に含まれない。

Ⅵ．成績不振基準

履修を計画的に行い４年間で大学を卒業できるように指導するため、成績不振基準を設けています。
成績不振基準を下回った場合、別途指導を受けることがあります。

年次	総修得単位数
1	１セメスター終了時　14 以下
	２セメスター終了時　30 以下
2	３セメスター終了時　45 以下
	４セメスター終了時　64 以下
3	５セメスター終了時　75 以下
	６セメスター終了時　96 以下
4	７セメスター終了時　105 以下
	―
※この基準のみならず、進級要件を満たせない場合や出席不良、必修科目の単位を修得していない等も成績不振基準となる場合があります。	

人文学部歴史文化学科科目一覧

《掲載事項について》

必修・・・必ず単位修得しなければならない科目（修得できなければ卒業できません）

配当年次・・・履修可能な年次を〇で表しています

現代リベラルアーツ科目一覧

科目区分			科目ナンバー	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	配当年次 1年次	配当年次 2年次	配当年次 3年次	配当年次 4年次	卒業要件単位数	
現代リベラルアーツ科目	未来展望科目		DF114201	コミュニティの再生		2	○	○	○	○	2単位以上	必修28単位を含む50単位以上（ただし、他学科、他学部などで修得した単位を含むことができる）
			DF114202	生命の歩みと未来		2	○	○	○	○		
			DF114203	多様性の尊重		2	○	○	○	○		
			DF114204	科学技術の革新		2	○	○	○	○		
			DF114205	クオリティ・オブ・ライフの探究		2	○	○	○	○		
			DF114206	環境と開発		2	○	○	○	○		
	学際コア科目	人間と発達	DC111201	文学		2	○	○	○	○	2単位以上	
			DC111202	哲学		2	○	○	○	○		
			DC111203	心理学入門		2	○	○	○	○		
			DC111204	現代史		2	○	○	○	○		
			DC111205	健康とライフステージ		2	○	○	○	○		
			DC111206	健康スポーツ理論		2	○	○	○	○		
		人間と社会	DC111207	経済学入門		2	○	○	○	○		
			DC111208	経営学入門		2	○	○	○	○		
			DC111209	法学		2	○	○	○	○		
			DC111210	人権の歴史と現代		2	○	○	○	○		
			DC111211	日本国憲法		2	○	○	○	○		
			DC111212	地政学		2	○	○	○	○		
			DC111213	文化社会学		2	○	○	○	○		
		人間と自然	DC111214	生物学入門		2	○	○	○	○		
			DC111215	微生物の世界		2	○	○	○	○		
			DC111216	京の食材		2	○	○	○	○		
			DC111217	科学技術史		2	○	○	○	○		
			DC111218	分子遺伝学		2	○	○	○	○		
			DC111219	数理統計学		2	○	○	○	○		
		人間の複眼的理解	DC111220	生命倫理学		2	○	○	○	○		
			DC111221	ビジネス・データサイエンス入門		2	○	○	○	○		
			DC111222	メディア・リテラシー		2	○	○	○	○		
			DC111223	リベラルアーツ特別講義A		2	○	○	○	○		
			DC111224	リベラルアーツ特別講義B		2	○	○	○	○		
			DC111225	リベラルアーツ特別講義C		2	○	○	○	○		
			DC111226	リベラルアーツ特別講義D		2	○	○	○	○		
	初年次科目		DU134201	初年次ゼミⅠ	2		○				必修4単位	
			DU134202	初年次ゼミⅡ	2		○					
	アカデミック・リテラシー科目		DA134101	日本語リテラシーⅠ	1		○				必修3単位を含む5単位以上	
			DA134102	日本語リテラシーⅡ	1		○					
			DA132103	情報リテラシーⅠ	1		○					
			DA132104	情報リテラシーⅡ		1	○	○				
			DA232105	数的処理基礎		1		○	○			
			DA232206	AI・データサイエンス基礎		2		○	○			
			DA234207	アカデミック・ライティングⅠ		2		○	○	○		
			DA235208	アカデミック・ライティングⅡ		2		○	○	○		

科目区分			科目ナンバー	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	配当年次 1年次	配当年次 2年次	配当年次 3年次	配当年次 4年次	卒業要件単位数	
現代リベラルアーツ科目	語学・異文化理解科目	英語科目	DE131201	英語ⅠA	2		○				必修13単位のほか、英語ⅢA又は英語ⅢBから1単位以上	必修28単位を含む50単位以上（ただし、他学科、他学部などで修得した単位を含むことができる）
			DE131202	英語ⅠB	2		○					
			DE231203	英語ⅡA	2			○				
			DE231204	英語ⅡB	2			○				
			DE331105	英語ⅢA		1			○			
			DE331106	英語ⅢB		1			○			
			DE133107	英会話A	1		○					
			DE233108	英会話B	1			○				
			DE233109	英会話C	1			○				
			DE333110	英会話D	1				○			
			DE333111	英会話E	1				○			
			DE333112	上級英語Ⅰ		1	○	○	○	○		
			DE333113	上級英語Ⅱ		1	○	○	○	○		
		第二外国語科目	DL133101	ベーシック中国語Ⅰ		1	○	○	○	○		
			DL133102	ベーシック中国語Ⅱ		1	○	○	○	○		
			DL133103	ベーシック韓国語Ⅰ		1	○	○	○	○		
			DL133104	ベーシック韓国語Ⅱ		1	○	○	○	○		
			DL133105	ベーシックドイツ語Ⅰ		1	○	○	○	○		
			DL133106	ベーシックドイツ語Ⅱ		1	○	○	○	○		
			DL133107	ベーシックフランス語Ⅰ		1	○	○	○	○		
			DL133108	ベーシックフランス語Ⅱ		1	○	○	○	○		
			DL133109	ベーシックスペイン語Ⅰ		1	○	○	○	○		
			DL133110	ベーシックスペイン語Ⅱ		1	○	○	○	○		
		海外研修科目	DK156201	海外研修ⅠA		2	○	○	○	○		
			DK156202	海外研修ⅠB		2	○	○	○	○		
			DK156203	海外研修ⅠC		2	○	○	○	○		
			DK156404	海外研修Ⅱ		4	○	○	○	○		
	スポーツ・ライフスキル科目		DS146101	SLSⅠ	1		○				必修4単位	
			DS146102	SLSⅡ	1		○					
			DS247103	SLSⅢ	1			○				
			DS247104	SLSⅣ	1			○				
	キャリア教育科目		DR114201	キャリアデザインⅠ	2		○				必修4単位	
			DR114202	キャリアデザインⅡ	2		○					
			DR236103	キャリア形成実践演習Ⅰ		1		○				
			DR236104	キャリア形成実践演習Ⅱ		1			○			
			DR157105	企業実習Ⅰ		1	○	○				
			DR157206	企業実習ⅡA		2	○	○				
			DR157207	企業実習ⅡB		2	○	○				
			DR157408	企業実習Ⅲ		4	○	○				
			DR357109	インターンシップ実習Ⅰ		1			○	○		
			DR357210	インターンシップ実習Ⅱ		2			○	○		
			DR357411	インターンシップ実習Ⅲ		4			○	○		
	フィールド・スタディ科目		DD157201	フィールド・スタディA		2	○	○	○	○		
			DD157202	フィールド・スタディB		2	○	○	○	○		
			DD157203	フィールド・スタディC		2	○	○	○	○		

人文学部歴史文化学科科目一覧

《掲載事項について》
必修・・・必ず単位修得しなければならない科目（修得できなければ卒業できません）
配当年次・・・履修可能な年次を〇で表しています

学科専門科目一覧

区分		科目ナンバー	授業科目	単位数		配当年次				卒業要件単位数	
				必修	選択	1年次	2年次	3年次	4年次		
学科専門科目	基礎科目	HB111201	歴史文化学概論A	2		○	○	○	○	必修10単位	必修12単位を含む74単位以上
		HB111202	歴史文化学概論B	2		○	○	○	○		
		HB111203	日本史概説A	2		○	○	○	○		
		HB111204	先端ツーリズム入門		2	○	○	○	○		
		HB111205	歴史文化学入門A		2	○	○	○	○		
		HB111206	歴史文化学入門B		2	○	○	○	○		
		HB111207	宗教学		2	○	○	○	○		
		HB111208	社会学概論		2	○	○	○	○		
		HB111209	経済学概論		2	○	○	○	○		
		HB111210	自然地理学		2	○	○	○	○		
		HB111211	日本美術史A		2	○	○	○	○		
		HB111212	日本美術史B		2	○	○	○	○		
		HB111213	人文地理学A		2	○	○	○	○		
		HB111214	人文地理学B		2	○	○	○	○		
		HB111215	文化人類学A		2	○	○	○	○		
		HB111216	文化人類学B		2	○	○	○	○		
		HB111217	民俗学A		2	○	○	○	○		
		HB111218	民俗学B		2	○	○	○	○		
		HB111219	考古学概説A		2	○	○	○	○		
		HB111220	考古学概説B		2	○	○	○	○		
		HB132221	歴史文化学超領域演習		2	○	○	○	○		
		HB211222	デジタル人文学入門	2			○	○	○		
		HB111223	日本史概説B	2		○	○	○	○		
		HB213224	歴史文化学地域探究演習A		2		○				
		HB213225	歴史文化学地域探究演習B		2		○				
		HB213226	歴史文化学地域探究演習C		2		○				
		HB212227	歴史文化学基礎ゼミ		2		○				
		HB217228	フィールドワーク演習Ⅰ		2		○	○	○		
		HB214229	歴史文化学演習A		2	○	○	○	○		
		HB214230	歴史文化学演習B		2	○	○	○	○		
		HB214231	歴史文化学領域横断講義A		2		○	○	○		
		HB214232	社会調査法Ⅰ		2		○	○	○		
		HB214233	社会調査法Ⅱ		2		○	○	○		
		HB211234	地誌		2		○	○	○		
		HB211235	政治学原論		2		○	○	○		
		HB215236	質的社会調査論		2		○	○	○		
		HB211237	西洋史概説A		2		○	○	○		
		HB211238	西洋史概説B		2		○	○	○		
		HB212239	古文書学A		2		○	○	○		
		HB212240	古文書学B		2		○	○	○		
		HB211241	東洋史概説A		2		○	○	○		
		HB211242	東洋史概説B		2		○	○	○		
		HB111243	宗教文化		2	○	○	○	○		
		HB111244	日本思想史		2	○	○	○	○		

区分		科目ナンバー	授業科目	単位数		配当年次				卒業要件単位数	
				必修	選択	1年次	2年次	3年次	4年次		
学科専門科目	展開科目	HI334201	専門ゼミⅠ		2			○		必修2単位	必修12単位を含む74単位以上
		HI334202	専門ゼミⅡ		2			○			
		HI334203	先端ツーリズム英語演習Ⅰ		2			○	○		
		HI334204	先端ツーリズム英語演習Ⅱ		2			○	○		
		HI344205	デジタル人文学演習Ⅰ		2			○	○		
		HI344206	デジタル人文学演習Ⅱ		2			○	○		
		HI337207	フィールドワーク演習Ⅱ		2			○	○		
		HI214208	先端ツーリズム特別講義A		2		○	○	○		
		HI214209	先端ツーリズム特別講義B		2		○	○	○		
		HI214210	先端ツーリズム特別講義C		2		○	○	○		
		HI214211	先端ツーリズム特別講義D		2		○	○	○		
		HI214212	先端ツーリズム特別講義E		2		○	○	○		
		HI214213	先端ツーリズム特別講義F		2		○	○	○		
		HI214214	口承文芸論		2		○	○	○		
		HI214215	神話学		2		○	○	○		
		HI214216	歴史文化学特別講義A		2		○	○	○		
		HI214217	歴史文化学特別講義B		2		○	○	○		
		HI214218	歴史文化学特別講義C		2		○	○	○		
		HI214219	歴史文化学特別講義D		2		○	○	○		
		HI314220	歴史文化学領域横断講義B		2			○	○		
		HI214221	歴史学特別講義A		2		○	○	○		
		HI214222	歴史学特別講義B		2		○	○	○		
		HI214223	歴史学特別講義C		2		○	○	○		
		HI214224	歴史学特別講義D		2		○	○	○		
		HI214225	歴史学特別講義E		2		○	○	○		
		HI214226	歴史学特別講義F		2		○	○	○		
		HI311227	コミュニティ社会学概論		2			○	○		
		HI312228	社会意識論概説		2			○	○		
		HI435229	専門ゼミⅢ		2				○		
		HI435230	専門ゼミⅣ		2				○		
		HI467231	卒業研究	2					○		

第３章　大学共通

インターンシップ（企業実習）プログラム

目的

「世界で活躍できる人材になってほしい」。学生が卒業後も豊かな人生を送れるように、インターンシップ推進課では、キャリアマネジメント課と共にキャリア教育を行っています。インターンシップを通じて働く意味はもちろんのこと、社会から求められる人材についての“学び”や“気づき”を得て、進路や学生生活の充実を図ることを目的としています。

全学共通型インターンシップ（本学主催）

全学生対象の全学共通型インターンシップ（企業実習）は、4 月に説明会を行い、学内選考を経て実習先を決定します。その後、夏季休暇を利用し、2 週間～1 カ月程度の実習を経験します。また、実習経験をより良いものとするために、事前・事後学習を行います。事前学習では、業界・企業研究を通じて実習先への理解を深めます。実習後の事後学習では、様々な角度で自身を振返り、成果報告会にて学びや気づき、そして今後の目標などを発表します。海外・国内ともに多様なプログラムを提供しています。

全学共通型インターンシップは海外コースと国内コースの 2 種類のプログラムがあり、応募段階でどちらのコースを希望するか選択していただきます。

「海外コース」・・・海外へ渡航し、現地企業および団体にて実習を行う。
　実習例）某都銀米国支店での金融実務、某メーカー欧州統括拠点での管理実務、米国の菓子製造会社での実務等。
「国内コース」・・・国内の企業および団体にて実習を行う。
　実習例）メーカー、金融、IT、食品、スポーツなど、多様な業界・職種の受入先が 100 社以上あり。
※2024 年度実績：海外コース、国内コース合わせて 200 名以上が参加。

＜スケジュール＞
　4 月　説明会・募集・出願
　5 月　学内選考
　6～7 月　事前授業
　8～9 月　実習
　10 月　事後授業および成果報告会

＜履修手続き＞
　学内選考通過後に教務センターにて登録を行います。
　※履修登録の取り消し（辞退）は、学内選考通過後 3 日以内にインターンシップ推進課へ申し出てください。

＜単位認定について＞
　プログラムを修了した者については、評価基準に応じて採点の上、単位認定を行います。認定された単位は、各学部のカリキュラムで想定されている範囲内で要卒単位に含まれます。

キャリアディベロップメントセンター・インターンシップ推進課

京都太秦キャンパス　西館 1F　インターンシップ推進課
≪窓口取扱時間≫　月～金　8:30～17:00（大学が定める休業日を除く。長期休業期間中は時間変更有。）
TEL：075-406-9260　　E-Mail：intern@kuas.ac.jp

大学コンソーシアム京都　単位互換制度

大学コンソーシアム京都の単位互換制度とは、他の加盟大学・短期大学において修得した授業科目の単位を自大学の単位として修得したものとみなされる制度です。現在では約50校の加盟校と協定を締結し、多くの学生が多種多様な学問分野の講義を履修しています。

1．出願手続き

（1）ガイダンス

オリエンテーション期間中に、本学「先端なび」に出願方法についての案内を掲示します。受講希望者は、期日までに、所定の出願手続きを行ってください。

（2）出願方法

大学コンソーシアム京都のポータルシステム「単位互換・京カレッジポータルサイト」上でのオンライン出願となります。

まず、アカウントを作成してください。次に、受講希望科目の出願登録を行って、所定期日までに教務センターに申請報告をしてください。

単位互換科目の登録・履修制限は、当該年度で３科目以内です。本学の履修登録制限単位数には含みません。

（3）各科目の詳細

大学コンソーシアム京都のポータルシステム「単位互換・京カレッジポータルサイト」で検索・閲覧してください。

2．履修許可および履修手続き

大学コンソーシアム京都単位互換科目は、全科目定員制です。科目開設大学で書類選考等を実施し、履修可否は、出願時に登録したメールアドレス宛に通知されます。

履修許可を受けた場合、科目開設大学から指示された所定の手続きを行ってください。

3．科目開設大学からの諸連絡

授業に関するお知らせ・休講・補講・試験等については、出願時に登録したメールアドレス宛に通知されます。また、大学コンソーシアム京都のポータルシステム「単位互換・京カレッジポータルサイト」にて、各自で確認してください。

4．単位認定について（健康医療学部看護学科・言語聴覚学科除く）

履修登録が正しくできており、一定の要件を充たした場合は、単位が認定されます。受講した科目名にかかわらず、本学の成績表には「単位互換（コンソーシアム）」という科目名で表示されます。評価欄には単位認定を意味する「N」と表示され、点数は表示されません。認定された単位は、各学部のカリキュラムで規定されている範囲内で要卒単位に含まれます。

卒業年次の場合、科目開設大学からの成績通知が、本学の卒業判定に間に合わない場合があります。単位互換科目の単位認定の可否が、卒業判定に影響するような受講は避けてください。

5．「大学コンソーシアム京都　インターンシップ・プログラム」について

例年4月頃に、一般の単位互換科目履修登録とは別に登録申請を受け付けます（年１回）。受講が許可され、一定の要件を充たした場合「インターンシップ実習」という科目名で単位認定されます。認定された単位は、各学部のカリキュラムで規定されている範囲内で要卒単位に含まれます。詳細は、インターンシップ推進課に照会してください。

放送大学　単位互換制度

放送大学はBSテレビ・ラジオ、インターネット等を通して、大学教育の機会を幅広く提供している正規の通信制大学です。本学は放送大学と単位互換協定を締結しており、本制度を適用している学部の学生が、放送大学の科目を「特別聴講学生」として履修し単位を修得した場合、その単位が本学の卒業要件単位として認定されます。（各学部カリキュラムの規定があります。）

1．出願手続き

（1）ガイダンス

履修・出願方法については本学「先端なび」で掲示します。

放送大学の第1学期(4月～9月）の受講については前年度の1月頃、第2学期（10月～3月）の受講については7月頃に案内します。

（2）放送大学授業期間と試験期間

第1学期　授業期間：4月～9月　試験期間：7月中旬～下旬頃

第2学期　授業期間：10月～3月　試験期間：1月中旬～下旬頃

（3）出願方法

各キャンパスの教務センターで、「特別聴講学生出願書類」「授業科目案内」を受け取り、所定の書類を本学の教務センターに提出してください。放送大学ホームページからのインターネット出願、また放送大学への直接の出願はできません。必ず本学の教務センターを通じて出願してください。

出願期間は、第1学期(4月～9月）は前年度の1月頃、第2学期(10月～3月）は7月頃です。

（4）履修可能科目と単位数

本学「先端なび」で掲示する「放送大学開設授業科目一覧」、放送大学のWEBサイトで検索・閲覧してください。

履修可能単位数は各学部・学科で異なりますので、履修要項をご確認ください（P.35-36、48-49参照）。放送大学で履修する科目は履修登録制限単位数には含まれません。

2．履修許可

放送大学で履修が許可されると出願学生の住所に合格通知書と払込取扱票が放送大学より送付されます。期日までに自身で学費を納付すると、学生の登録住所に印刷教材・入学許可書等が届きます。

3．単位認定について（バイオ環境学部・健康医療学部・工学部は除く）

放送大学で修得した単位は受講科目名にかかわらず、本学の成績表には「単位互換（放送大学）」という科目名で表示されます。評価欄には単位認定を意味する「N」と表示され、点数は表示されません。認定された単位は、各学部のカリキュラムで規定されている範囲内で、要卒単位に算定されます。

卒業予定セメスター（学期）での受講はできません。また進級判定を行うセメスターで受講し、放送大学からの成績通知が本学の進級判定に間に合わない場合は、成績の合否に関係なく進級要件としての修得単位数には算定されません。単位互換科目の単位認定の可否が、進級判定に影響するような受講は避けてください。

国内留学（札幌学院大学・沖縄国際大学）

【趣旨及び留学先】

本学と札幌学院大学及び沖縄国際大学との間で、教育研究の発展に資するため、大学間で単位互換に関する協定（包括協定）を結んでいます。これによりお互いに学生を交換し、交流及び学修ができるようになっています。

【資格及び決定手順】

資格：原則として、先方で留学する学年が２年次以上で、留学先での目的が明確かつ成績優秀な者。

決定手順：本学において希望する学生を選考のうえ、学長が推薦します。

相手先で受け入れについて審議された後決定します。（２月下旬予定）

【留学期間】

１年（春学期から）または半年（春学期または秋学期）とします。

札幌学院大学は、完全なセメスター制ではありませんので、半年での科目履修は限定されます。

【学修・単位】

履修指導：留学先の大学のカリキュラムに基づいて、履修指導を受けます。

留学先で修得した単位：学則に基づき、**60 単位まで要卒単位として認定されます。**

【経費】

留学中の学費：本学に所定の学費を納めます。留学先に納める必要はありません。

その他の実習費等は、自己負担となります。

【出願手続】

希望する留学先を決め、願書及び履歴書等を本学教務センターへ提出します。（11 月下旬頃）

詳細は「先端なび」からお知らせします。

提出必要書類等

①願書	（受入大学の様式。教務センターで配布）
②履歴書・自己紹介書	（受入大学の様式。教務センターで配布）
③履修登録予定科目一覧	（本学の様式。教務センターで配布）
④健康診断証明書	（本学保健室に申し込む：手数料 340 円）
⑤写真	（学生証用　ﾀﾃ４×ﾖｺ３㎝）

【学籍】

国内留学期間：「留学」という学籍になり、在学期間に含まれます。

留学により卒業の時期が延びることはありません。

手続：留学が決定した後、留学願を本学教務センターに提出します。

留学が終了した後、留学終了届を本学教務センターに提出します。

【留学先での身分及び生活等】

札幌学院大学では特別科目等履修生、沖縄国際大学では特別聴講学生の身分になります。

留学先では、学生生活に必要な施設及び制度を利用することができます。

留学期間中の滞在先が決まっていない場合は、留学先の大学と相談しながら下宿先を探します。

【その他】

学則（本学および留学先の大学）に違反するとき、又は修学状況が悪いときは、資格を取り消すことがあります。

海外留学･海外研修
相談窓口　国際センター

本学ではより多くの学生の皆さんに海外経験の機会を提供することを目指し、さまざまな海外留学・海外研修プログラムを用意しています。海外提携校との交換留学プログラム、海外での短期研修など多種多様です。また、事前学習などのプログラムも設け、海外での学習の準備が整えられるようにしています。

海外留学・海外研修を実りあるものにするためには、第一に強い意欲と目的意識が必要となりますが、情報収集や事前準備もしっかりと行う必要があります。各プログラムの詳細は国際センターで確認してください。

1．交換留学プログラム

【交換留学について】

本学では、海外の大学と協定を結び、交換留学プログラムを実施しています。交換留学では、約半年間あるいは約１年間、海外の大学に在籍し、学生として留学先大学の学生と同じ授業を受けます。交換留学期間中の本学での学籍は「留学」となり、休学ではなく在学期間に含まれます。

【応募時期】

春と秋の年２回あり、詳細は「先端なび」でお知らせします。

【交換留学の出願資格】

- 留学出発時点で１年以上本学に在学していること。
- 出願時の通算GPAが2.0以上であること。
- 出願時において、前セメスターまでの必修科目を修得していること。
- 出願時において、１セメスターあたり平均20単位以上修得していること。（*１）
- 派遣先大学の定める基準を満たしていること。

*１：認定科目及び春学期に成績の出ない科目は、単位を修得したものとする。

【交換留学先で修得した単位の認定】

1セメスターで24単位、2セメスターで48単位を限度として単位認定されます。他大学等で修得した単位と合計して60単位を限度として卒業要件単位に含まれます。

（注）ただし、交換留学先で修得した単位が必ずしも本学の単位として認定されるとは限りません。

【交換留学先ー例】交換留学先は追加・変更となる場合があります。

国・地域名	交換留学協定締結校名
アメリカ合衆国	ノースセントラル大学
台湾	國立高雄餐旅大学
タイ王国	カセサート大学
	ランシット大学
インドネシア共和国	IPB農業大学
ドイツ	ヨハネス・グーテンベルク大学マインツ

2．海外研修プログラム

各海外研修の詳細は、国際センターに問い合わせてください。

本学が主催するプログラムの具体的な内容については、先端なびの掲示等でお知らせします。過去の研修内容は、本学の公式ウェブサイトに公開しています。

外部機関が主催するプログラムについても、国際センターにて案内することが可能です。

（１）海外研修の単位修得について

海外研修の単位取得に関する詳細は、教務センターに問い合わせてください。

事前に教務センターに申請を行い、許可を得られた場合において、所定の要件を充たせば成績評価の対象となります。

科目名称	単位数	成績評価方法	対象
海外研修ＩＡ	２単位	外国の大学等で語学研修等を２週間程度行い、かつ指定されたレポート（2000 字程度）を提出して、審査に合格した場合に単位を認定する。	①本学または本学と提携の大学が行う海外研修 ②個人で参加する海外研修
海外研修ＩＢ	２単位	海外研修ＩＡを履修した者が外国の大学等で語学研修等を２週間程度行い、かつ指定されたレポート（2000 字程度）を提出して、審査に合格した場合に単位を認定する。	
海外研修ＩＣ	２単位	海外研修ＩＢを履修した者が外国の大学等で語学研修等を２週間程度行い、かつ指定されたレポート（2000 字程度）を提出して、審査に合格した場合に単位を認定する。	
海外研修Ⅱ	４単位	外国の大学等で語学研修等を１か月程度行い、かつ指定されたレポート（2000 字程度）を提出して、審査に合格した場合に単位を認定する。	

- 海外の大学等の同一機関で同一レベルの語学研修等を重複して行った場合、単位認定の対象になるのは一方のみです。
- 履修登録制限には含まれません。

（２） 単位認定の申請方法

- 「海外研修」の単位認定を希望する場合は、事前指導を受けてから研修先を決定してください。
- 海外研修を修了した者は、修了証明書の写し及び指定されたレポートを担当者に提出してください。
- 履修登録及び単位認定は帰国後当該年度に行います。ただし、派遣先大学からの成績発表時期により、履修登録及び単位認定が当該年度中に間に合わない場合、翌年度に行います。
- 前各項にかかわらず、本学が行う「海外研修」に関する指導は別途行います。

（３） 海外研修期間中の学籍

「留学」にはなりません。

キャリア・就職支援体制

本学では入学から卒業までの４年間を通してのキャリア支援を行っています。未知なる可能性を秘めているみなさんが、自身の目標や夢を達成していくために早い時期から日本が直面する将来の変化を知り、その上で「なりたい自分」や「やりたい仕事」について考えを巡らし、行動して欲しいと願っています。

	１年次	２年次	３年次	４年次
キャリア教育（正課）	【① キャリア教育】 春学期：キャリアデザインⅠ 秋学期：キャリアデザインⅡ	【① キャリア教育】 春学期：各専門科目 （キャリア意識醸成） 秋学期：キャリア形成実践演習Ⅰ	【① キャリア教育】 春学期：キャリア形成実践演習Ⅱ	
	【②インターンシップ（企業実習）プログラム】			
	将来について考える 【①キャリア教育】を通して早い時期から日本が直面する将来変化を知り、人生設計の中で働くことの意味を考えます。その上で卒業後の進路イメージを形成し、将来の目標を設定。3 年次に本格化する就職活動に向け、基本的知識とスキルを身に付けます。			
	仕事を知る・体験する 【②インターンシップ（企業実習）プログラム】では実社会で実際に仕事を体験し、仕事観・職業観を培うとともに実社会で働く上で必要な知識やスキルに気付き、大学に戻ってから学びを深めて身に付けていきます。1 年次から参加可です。プログラム以外の企業が実施するインターンシップ情報は、学内求人システム「Job KUAS」より検索することができます。			
就職支援（課外）	**資格取得を目指す・スキル能力を向上する** 各種検定試験合格のための【⑧資格取得支援講座】を多数開講。皆さんの将来に繋がる「キャリアづくり」をサポートしています。			
	公務員を目指す 外部機関が実施している講座を大学提供価格で受講し対策することができます。【⑨公務員対策】			
		就職活動の対策をする ３年次から本格的に始まる就職活動に向けて全面的にバックアップしています。履歴書作成、筆記試験、面接などの対策講座だけでなく、みなさん一人ひとりの就職相談の場として個人面談も実施しています。蓄積された企業に関する豊富な情報も提供しているので企業選びにも是非活用してください。【③個人面談】【⑤就職支援行事】【⑥就職関連情報の提供】【⑦就職筆記試験対策講座】 2024 年度は約 300 社の企業の人事ご担当者をお招きして【④学内合同業界研究セミナー】を実施。各企業による事業内容だけでなく仕事内容についても話を聞く機会にもなり、目前に迫る職業選択に役立ちます。セミナーをきっかけに内定につながるケースもあります。		

① キャリア教育
卒業後の進路として働くことの意味を考えるとともに企業や社会との接点を設けるなど、体系的なプログラムです。
【１年次：キャリアデザイン】日本が直面する社会・構造変化を理解し、人生１００年時代において「働く」ことの意味・意義を考えます。
【２・３年次：キャリア形成実践演習】３年次から本格的に始まる就職活動に向けて、基本的な知識とスキルの習得に加え、社会と自分自身の関わり方として具体的に「業界・企業・職種」への理解を深めます。
【キャリアフェスティバル】様々な業界で実務経験のある教職員が講師となり、自分の経験を基に働く意味を語りかけます。就職活動や将来の職業選択について新たな気付きを得る機会です。（2024 年度は約 45 名の講師が登壇）

② インターンシップ（企業実習）プログラム
本書 「第３章 大学共通 インターンシップ（企業実習）プログラム」 をご参照下さい。

③ 個人面談（対面、オンラインで実施しています。）
就職活動や卒業後の進路に少しでも不安があればまず個人面談を利用しましょう。進路相談だけでなく、自己分析や自己 PR、学生時代に取り組んだことを明確にし言語化をすることで、選考に必要な履歴書の完成も目指します。企業選択においては様々な業界・職種を知りながら、自分自身の希望や適性に照らして志望企業を決めていきます。また志望に応じた求人情報も案内しています。「Job KUAS」から予約をして、是非面談を活用してください。

④ 学内合同業界研究セミナー（主として３年次対象）
2024 年度は約 300 社の企業に参加頂き、学内合同業界研究セミナーを実施しました。卒業生が在籍している企業はじめ、本学の学生を採用したいと考える企業が一堂に会し、業界や仕事の内容を紹介されました。興味がないと思っていた企業でも話を聞くことで視野が広がる良い機会ですので就職活動をする人は必ず参加してください。

⑤ 就職支援行事（主として３・４年次対象）
就職活動をスムーズにスタートするため「①自分を知る、②業界、企業を知る、③選考に向けて準備する」のセミナー等を開催しています。（就職活動準備、自己分析、履歴書、エントリーシート、志望動機、面接、グループディスカッション）

⑥ 就職関連情報の提供
学内求人システム「Job KUAS」で大学求人を公開しています。このほか、学外での企業説明会、各種セミナーなどは「先端なび＞就職ポータル」で紹介しています。就職活動に重要な情報のみが掲載されますので、「Job KUAS」と「先端なび＞就職ポータル」は毎日確認をしましょう。

⑦ 就職筆記試験対策講座
選考時に実施される就職筆記試験（SPI や CAB/GAB）の勉強は欠かせません。年間を通して対策講座を実施していますので自分の実力を知り、知識習得に励みましょう。

⑧ 資格取得支援講座
マイクロソフトの MOS や秘書検定などの基本的な資格から、簿記会計や販売士、宅建、ファイナンシャルプランニングなど専門的な資格まで、各種講座をラインナップしています。

⑨ 公務員対策
外部機関の講座を大学価格で提供しています。自身に合った学習方法を選択し試験対策することができます

キャリアディベロップメントセンター・キャリアマネジメント課

みなさんの就職活動や資格取得の支援をしているのが「キャリアマネジメント課」です。
《京都太秦キャンパス（西館１階）窓口取扱時間》（土日祝日、その他大学が定める休業日を除きます。）

月～金	8:30～17:00

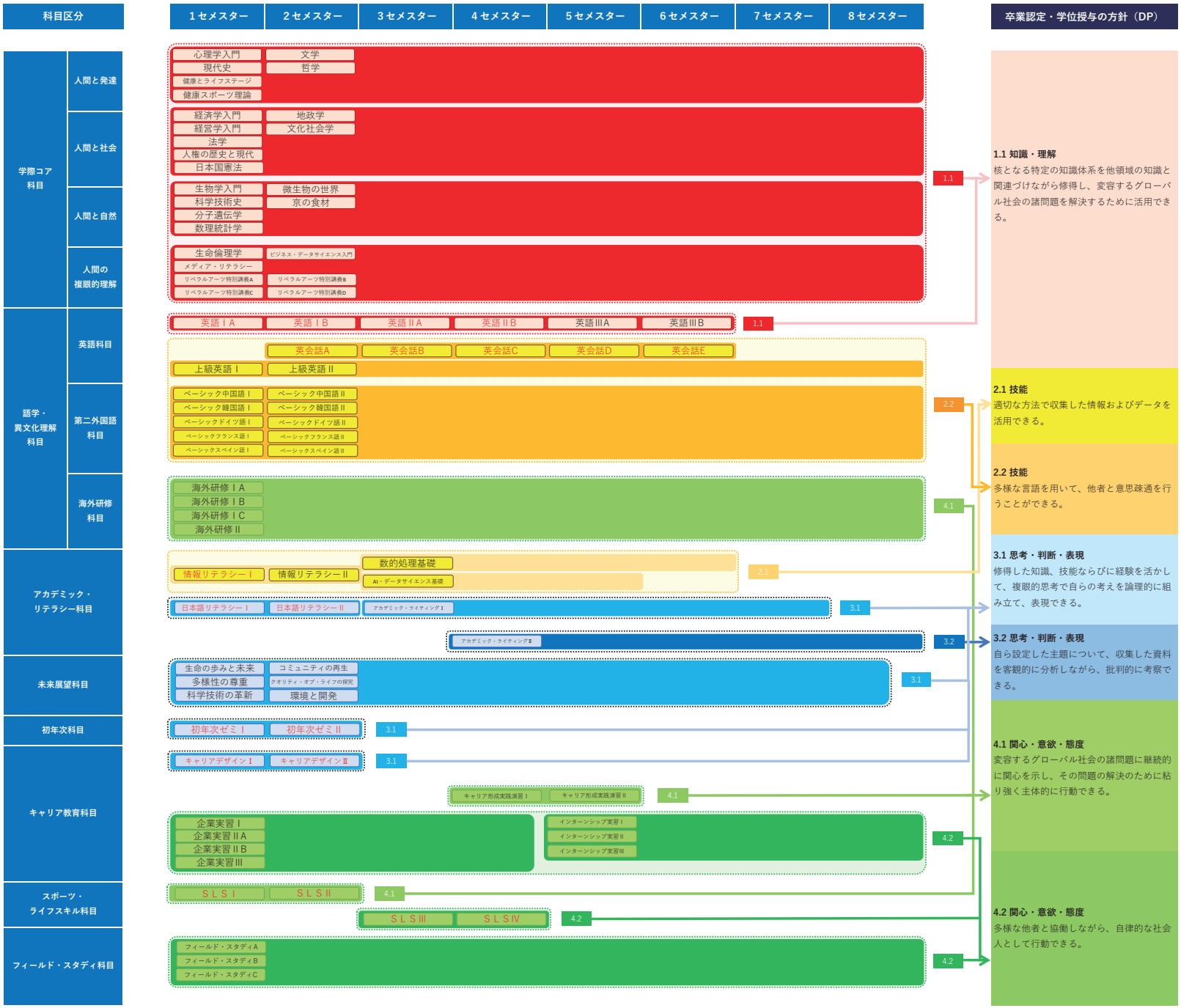
TEL:075-406-9260　E-Mail:career@kuas.ac.jp（両キャンパス共通）
《京都亀岡キャンパス（楠風館１階）窓口取扱時間》（土日祝日、その他大学が定める休業日を除きます。）

月～金	8:30～17:00

TEL:0771-29-2260
いずれのキャンパスも、夏期冬期等の休業期間中は、上記窓口取扱時間が変更になる場合があります。

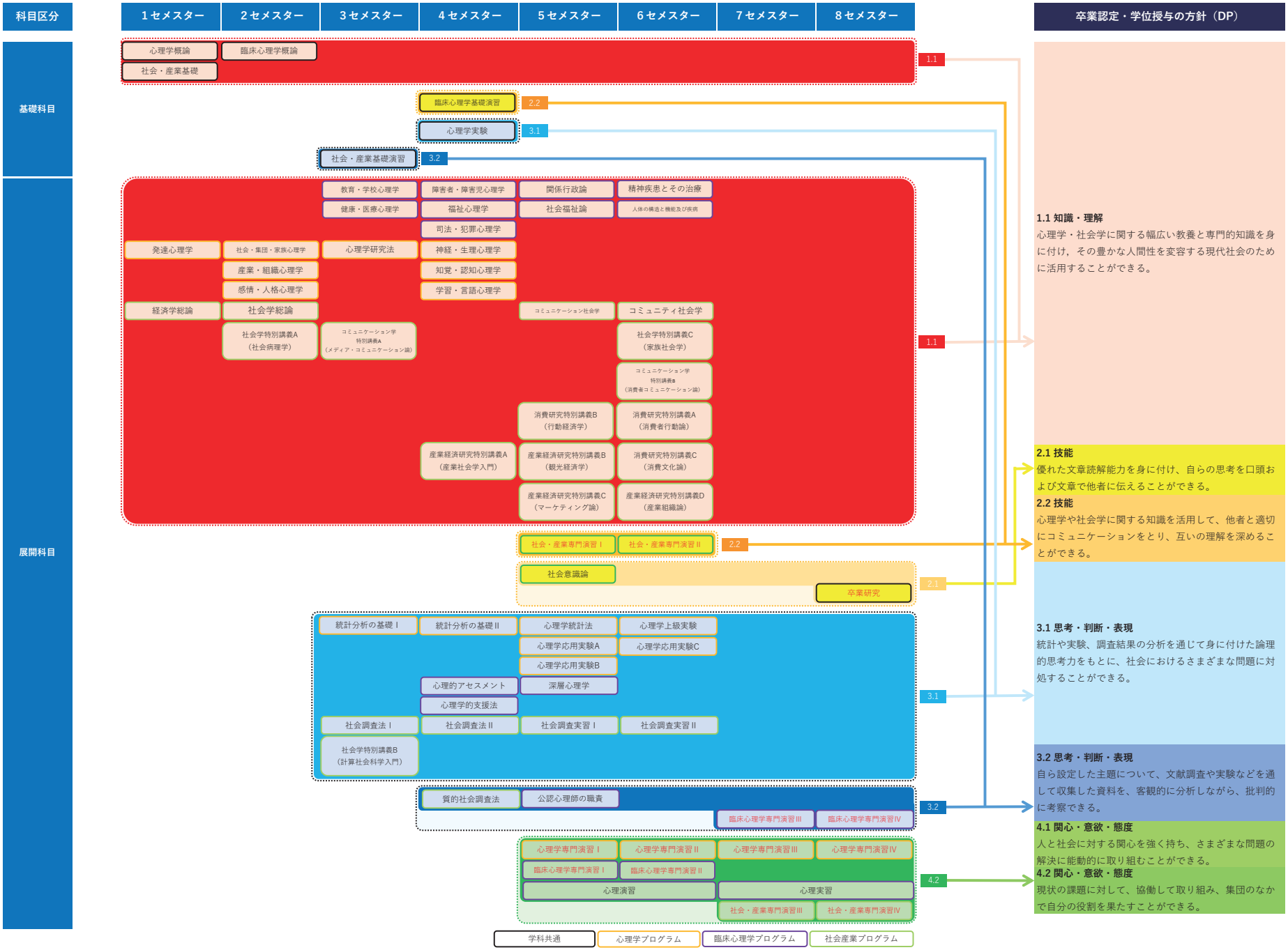
現代リベラルアーツ科目（全学共通）

※健康医療学部看護学科・言語聴覚学科、工学部を除く

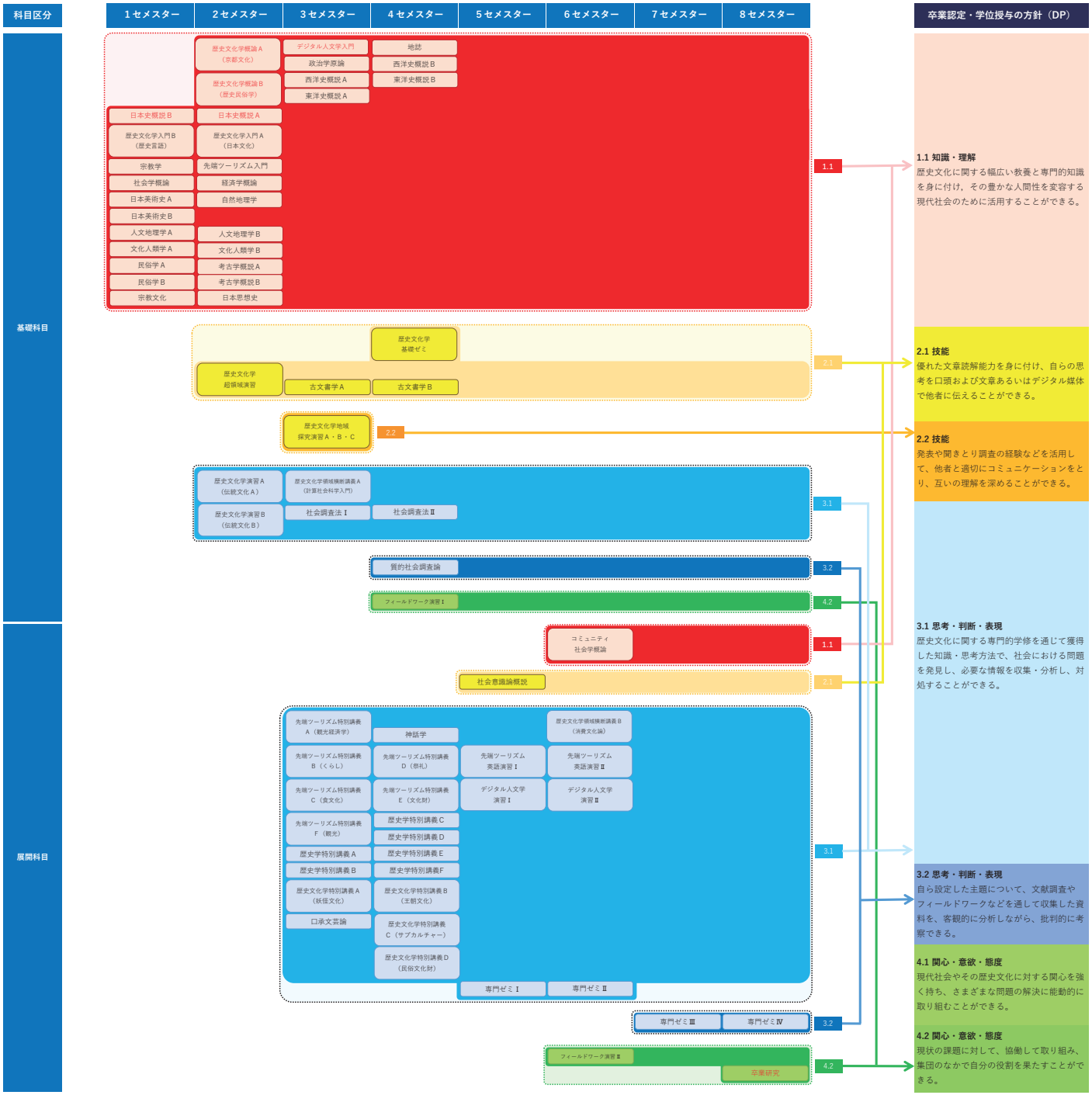


必修科目（赤字）は、履修するセメスターに配置しています。
選択科目（黒字）は、最も早く履修できるセメスターに配置しています。科目群の下の色の帯は、履修可能なセメスターを表しています。

心理学科（専門科目）


科目区分
1セメスター
2セメスター
3セメスター
4セメスター
5セメスター
6セメスター
7セメスター
8セメスター
卒業認定・学位授与の方針（DP）
基礎科目
心理学概論
臨床心理学概論
社会・産業基礎
1.1
臨床心理学基礎演習
2.2
心理学実験
3.1
社会・産業基礎演習
3.2
展開科目
教育・学校心理学
障害者・障害児心理学
関係行政論
精神疾患とその治療
健康・医療心理学
福祉心理学
社会福祉論
人体の構造と機能及び疾病
司法・犯罪心理学
発達心理学
社会・集団・家族心理学
心理学研究法
神経・生理心理学
産業・組織心理学
知覚・認知心理学
感情・人格心理学
学習・言語心理学
経済学総論
社会学総論
コミュニケーション社会学
コミュニティ社会学
社会学特別講義A（社会病理学）
コミュニケーション学特別講義A（メディア・コミュニケーション論）
社会学特別講義C（家族社会学）
コミュニケーション学特別講義B（消費者コミュニケーション論）
消費研究特別講義B（行動経済学）
消費研究特別講義A（消費者行動論）
産業経済研究特別講義A（産業社会学入門）
産業経済研究特別講義B（観光経済学）
消費研究特別講義C（消費文化論）
産業経済研究特別講義C（マーケティング論）
産業経済研究特別講義D（産業組織論）
1.1
社会・産業専門演習 I
社会・産業専門演習 II
2.2
社会意識論
卒業研究
2.1
統計分析の基礎 I
統計分析の基礎 II
心理学統計法
心理学上級実験
心理学応用実験A
心理学応用実験C
心理学応用実験B
心理的アセスメント
深層心理学
心理学的支援法
社会調査法 I
社会調査法 II
社会調査実習 I
社会調査実習 II
社会学特別講義B（計算社会科学入門）
3.1
質的社会調査法
公認心理師の職責
臨床心理学専門演習 III
臨床心理学専門演習 IV
3.2
心理学専門演習 I
心理学専門演習 II
心理学専門演習 III
心理学専門演習 IV
臨床心理学専門演習 I
臨床心理学専門演習 II
心理演習
心理実習
社会・産業専門演習 III
社会・産業専門演習 IV
4.2
学科共通
心理学プログラム
臨床心理学プログラム
社会産業プログラム
1.1 知識・理解
心理学・社会学に関する幅広い教養と専門的知識を身に付け，その豊かな人間性を変容する現代社会のために活用することができる。
2.1 技能
優れた文章読解能力を身に付け、自らの思考を口頭および文章で他者に伝えることができる。
2.2 技能
心理学や社会学に関する知識を活用して、他者と適切にコミュニケーションをとり、互いの理解を深めることができる。
3.1 思考・判断・表現
統計や実験、調査結果の分析を通じて身に付けた論理的思考力をもとに、社会におけるさまざまな問題に対処することができる。
3.2 思考・判断・表現
自ら設定した主題について、文献調査や実験などを通して収集した資料を、客観的に分析しながら、批判的に考察できる。
4.1 関心・意欲・態度
人と社会に対する関心を強く持ち、さまざまな問題の解決に能動的に取り組むことができる。
4.2 関心・意欲・態度
現状の課題に対して、協働して取り組み、集団のなかで自分の役割を果たすことができる。

歴史文化学科（専門科目）


科目区分
1セメスター
2セメスター
3セメスター
4セメスター
5セメスター
6セメスター
7セメスター
8セメスター
卒業認定・学位授与の方針（DP）
基礎科目
歴史文化学概論A（京都文化）
歴史文化学概論B（歴史民俗学）
デジタル人文学入門
政治学原論
西洋史概説A
東洋史概説A
地誌
西洋史概説B
東洋史概説B
日本史概説B
日本史概説A
歴史文化学入門B（歴史言語）
歴史文化学入門A（日本文化）
宗教学
先端ツーリズム入門
社会学概論
経済学概論
日本美術史A
自然地理学
日本美術史B
人文地理学A
人文地理学B
文化人類学A
文化人類学B
民俗学A
考古学概説A
民俗学B
考古学概説B
宗教文化
日本思想史
1.1
歴史文化学基礎ゼミ
歴史文化学超領域演習
古文書学A
古文書学B
2.1
歴史文化学地域探究演習A・B・C
2.2
歴史文化学演習A（伝統文化A）
歴史文化学演習B（伝統文化B）
歴史文化学領域横断講義A（計算社会科学入門）
社会調査法Ⅰ
社会調査法Ⅱ
3.1
質的社会調査論
3.2
フィールドワーク演習Ⅰ
4.2
展開科目
コミュニティ社会学概論
1.1
社会意識論概説
2.1
先端ツーリズム特別講義A（観光経済学）
神話学
歴史文化学領域横断講義B（消費文化論）
先端ツーリズム特別講義B（くらし）
先端ツーリズム特別講義D（祭礼）
先端ツーリズム英語演習Ⅰ
先端ツーリズム英語演習Ⅱ
先端ツーリズム特別講義C（食文化）
先端ツーリズム特別講義E（文化財）
デジタル人文学演習Ⅰ
デジタル人文学演習Ⅱ
先端ツーリズム特別講義F（観光）
歴史学特別講義C
歴史学特別講義D
歴史学特別講義A
歴史学特別講義E
歴史学特別講義B
歴史学特別講義F
歴史文化学特別講義A（妖怪文化）
歴史文化学特別講義B（王朝文化）
口承文芸論
歴史文化学特別講義C（サブカルチャー）
歴史文化学特別講義D（民俗文化財）
専門ゼミⅠ
専門ゼミⅡ
3.1
専門ゼミⅢ
専門ゼミⅣ
3.2
フィールドワーク演習Ⅱ
卒業研究
4.2
1.1 知識・理解
歴史文化に関する幅広い教養と専門的知識を身に付け，その豊かな人間性を変容する現代社会のために活用することができる。
2.1 技能
優れた文章読解能力を身に付け、自らの思考を口頭および文章あるいはデジタル媒体で他者に伝えることができる。
2.2 技能
発表や聞きとり調査の経験などを活用して、他者と適切にコミュニケーションをとり、互いの理解を深めることができる。
3.1 思考・判断・表現
歴史文化に関する専門的学修を通じて獲得した知識・思考方法で、社会における問題を発見し、必要な情報を収集・分析し、対処することができる。
3.2 思考・判断・表現
自ら設定した主題について、文献調査やフィールドワークなどを通して収集した資料を、客観的に分析しながら、批判的に考察できる。
4.1 関心・意欲・態度
現代社会やその歴史文化に対する関心を強く持ち、さまざまな問題の解決に能動的に取り組むことができる。
4.2 関心・意欲・態度
現状の課題に対して、協働して取り組み、集団のなかで自分の役割を果たすことができる。

KUAS 京都先端科学大学
KYOTO UNIVERSITY of ADVANCED SCIENCE

〔京都太秦キャンパス〕〒615-8577　京都市右京区山ノ内五反田町 18 番地
〔京都亀岡キャンパス〕〒621-8555　亀岡市曽我部町南条大谷 1-1
URL　https://www.kuas.ac.jp